

# ACTION PLAN & FINANCIAL

統合報告書 2022

宇都宮大学は、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献するという理念の下で、広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践します。

基本方針

- 教育** 幅広く深い教養と実践的な専門性を身につけ、未来を切り開く人材を育成します。
- 研究** 持続可能な社会の形成を促す研究を中心に、高水準で特色のある研究を推進します。
- 社会貢献** 地域社会のみならず広く国際社会に学び貢献する活動を積極的に展開します。

< 編集方針 >

本報告書は、宇都宮大学のあらゆるステークホルダーの皆様に、本学の価値向上に向けた取組をお伝えすることを目的に発行しております。編集にあたっては、次のガイドラインを参考に、公的セクターとしての地方国立大学が、ステークホルダーに開示すべき情報として何が有用かを踏まえた上で、内容を構成しています。

参考とした  
ガイドライン

国際統合報告フレームワーク：国際統合報告評議会 (IIRC)  
価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス：経済産業省

# CONTENTS

## 宇都宮大学の姿

01	宇都宮大学の価値創造	13	宇都宮大学の立地による地域への経済波及効果
03	バリューチェーンのフレームワークを応用した活動分析	15	ステークホルダーのみなさまへ(学長メッセージ)
07	宇都宮大学の軌跡		
11	数字で見る宇都宮大学		

## アクションプラン2022-2027

17	アクションプラン2022-2027の概要
19	Vision 1 未来を切り拓く人材の育成
27	Vision 2 持続可能な社会の実現に資する研究
29	Vision 3 対話から生み出される社会共創
31	Vision 4 学内のコンセンサスに立脚した組織運営

## 財務とマネジメント

33	環境への取組	40	コストの見える化に向けた取組
34	SDGsの推進	41	宇都宮大学3C基金
35	宇都宮大学のマネジメント体制	43	大学概要
37	財務情報		
39	セグメント情報の開示		

## 地域活性化のエンジンとなる価値創造プロセス

### 理念

人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する

### 基本姿勢

「地域に学び、地域に返す、地域と大学の支え合い」という姿勢を大切に、「地域の知の拠点」として変革をリードする

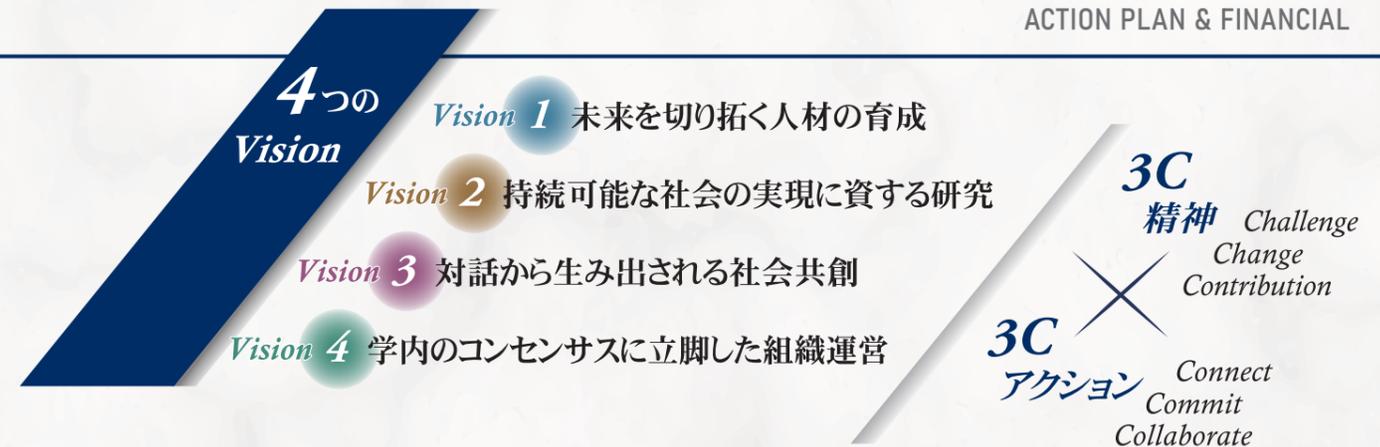
### 宇大スピリット＝「3C精神」＋「3Cアクション」

「3C精神」：～明るい未来を開拓するために～

主体的に挑戦し(Challenge)、時代の変化に対応して自らを変え(Change)、広く社会に貢献する(Contribution)

「3Cアクション」：～大学が地域や社会と共創していくために～

主体的に社会と繋がり(Connect)、責任をもって社会に関与し(Commit)、多面的に社会と協働する(Collaborate)



## インプット

### 社会・関係資本

- ▶ 歴史と伝統を継承しつつ、社会の変化に柔軟に対応した組織改革の歴史
  - ・ 創立73年
- ▶ 豊かなフィールドを持つ栃木県という立地条件
- ▶ 地域、社会との連携
  - ・ 地域等との連携協定：124件

### 知的資本

- ▶ 世界に通じる特色分野の研究の推進
  - ・ 分子農学、オプティクス、ロボティクス
- ▶ 地域に資する研究の推進
  - ・ 雑草防除、野生動物管理
- ▶ 異分野融合研究を創出しやすい環境

### 人的資本

- ▶ 多様な教員の確保
  - ・ 若手教員、女性教員、外国人教員
- ▶ 教職員のモチベーションアップ
  - ・ 多様な人事制度

### 財務資本／製造資本

- ▶ 資産・収益の確保
  - ・ 総資産：81,220百万円
  - ・ 経常収益：10,184百万円
- ▶ 教育・研究経費の確保
  - ・ 教育コストの学生一人当たり換算額：128万円
  - ・ 研究コストの教員一人当たり換算額：1,091万円

### 自然資本

- ▶ エネルギー使用量：135,912GJ
- ▶ 水使用量：155,326m<sup>3</sup>

## 事業活動

### 理念・基本姿勢・宇大スピリットをベースとした、VISION・戦略に基づく事業運営

### 教育

- ▶ 学修者本位の教育の実現
- ▶ 時代を先導する教育組織・プログラムの創出
- ▶ 実践的な大学院教育の推進
- ▶ 高大接続改革と新たなアドミッションの展開
- ▶ 学生の多様なニーズへの支援の充実

### 研究

- ▶ 研究力の強化と研究支援体制の整備
- ▶ 地域発オープンイノベーションの先導
- ▶ 地域創生推進モデルの確立
- ▶ 教職員の戦略的な配置

### 社会貢献

- ▶ 地域創生推進モデルの確立
- ▶ 地域教育界の先導
- ▶ 地域の学び直し拠点機能の拡充

## アウトプット

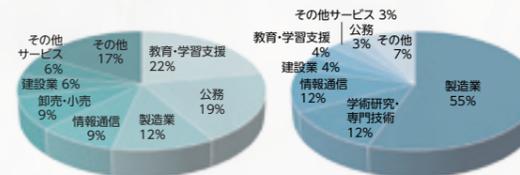
### 主な指標

### 卒業生(修了生)累計(1950～2021)

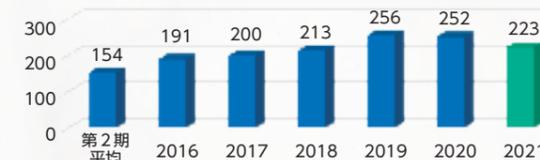
- ▶ 学部卒業生：56,184人
- ▶ 大学院修了生(修士・博士前期)：11,405人
- ▶ 大学院修了生(博士後期)：802人

### 2021年度卒業生(修了生)の進路

学部卒業生	大学院修了生
就職：58%	就職：78%
進学：38%	進学：4%
その他：4%	その他：18%



### 国際的に著名な学術誌への論文掲載件数



### 共同研究等受入件数

(2021)：201件

### 地域からの相談件数

(2021)：130件

### 宇大未来塾(社会人学び直しプログラム)修了者

(2017～)：178人

### 高大接続事業受入人数

(2021)：延べ8,131人

## アウトカム

### 学生への価値

- ▶ 質の保証された教育の展開
- ▶ 安全かつ充実した学生生活環境
- ▶ 多様な学生支援による学修機会の保証

### 地域・社会・産業界への価値

- ▶ 優秀な人材の輩出
- ▶ 研究成果の社会実装
- ▶ シンクタンクとしての「知」の提供
- ▶ 社会人の高い学修満足度
- ▶ 地域経済の活性化

### 卒業生・修了生への価値

- ▶ 歴史と伝統の継承
- ▶ ブランド力の向上

### 教職員への価値

- ▶ 安全で働きやすい職場環境の提供
- ▶ 仕事へのモチベーションの維持・向上

### 環境価値

- ▶ 地球温暖化対策
  - ゼロカーボンユニバーシティ

### 人類・国際社会への価値

- ▶ SDGsの達成への貢献



バリューチェーン(価値の連鎖)は、一般的にビジネスにおける生産から消費までの活動をセクションに分けて整理・分析し、各セクションで加わる価値を可視化する手法とされています。この手法を応用して、大学の主な活動である教育、研究、社会貢献について、各セクションにおける本学の特徴、強み・差別化ポイントと大学を取り巻く社会の動向や国の政策等に対し、本学のアクションプランがどう紐付くかを整理しました。宇都宮大学は、アクションプランの達成を通じてあらたな価値の創造に取り組んでいきます。



## 教育・研究分野の設置

**▶ 概要・特徴**  
開学当初からの教育学、農学、のちに工学の3学部から、全国の先駆となった国際学(1992)、文理・分野融合の地域デザイン科学(2014)を加えた5学部(研究分野)を擁しています。さらには、データサイエンスと経営を融合させた新たな分野の設置も計画しています。

**▶ 強み・差別化ポイント**  
・世界的な、またはイノベーションに直結する特色ある研究：分子農学、オプティクス(光工学)、ロボティクスなど  
・伝統ある特徴的な研究：雑草管理学、野生鳥獣管理学など

## 人材確保・研究環境の整備

**▶ 概要・特徴**  
人材(教育・研究者)の確保にあたっては、戦略的な観点から必要な分野を見極めて人事を発議し、広く公募を行ってより良い人材を選考しています。また、研究意欲が旺盛な若手研究者を、原則テニュアトラック制で採用し、業績を評価したうえでテニュアを付与する仕組みを導入して優秀な人材の確保に努めています。研究環境の整備としては、研究設備の共用化と戦略的な導入・更新、スペースマネジメントによる共用施設の確保と再配分、卓越教員制度(研究への専念)の導入などを行っています。

**▶ 強み・差別化ポイント**  
・戦略企画本部(執行部で構成)における人事の一元管理による戦略的人員配置の実現

## 研究成果の発信、社会実装

**▶ 概要・特徴**  
本学から生み出された研究成果は、公式ホームページのトピックスへの掲載や報道各社へのプレスリリース等によって積極的に発信されています。また、毎年コラボレーションフェアを開催して産業界等とのマッチングの強化を図っているほか、工農の技術融合による実用化ロボットの研究開発拠点である「ロボティクス・工農技術研究所(REAL)」では社会実装に向けた多くの研究プロジェクトが進行しています。

**▶ 強み・差別化ポイント**  
・長年築いてきた、文理、分野融合による学内連携の風土  
・研究成果の社会実装に向けた組織的取組み  
・リサーチ・アドミニストレーター(URA)によるマッチングの強化

**▶ 大学を取り巻く社会の動向や国の政策**  
科学技術・イノベーション基本計画(閣議決定)  
・地球規模課題の克服に向けた社会変革とイノベーションの推進  
・イノベーション・エコシステムの形成  
・研究開発・社会実装の推進と総合知の活用  
・多様で卓越した研究を生み出す環境の再構築  
・新たな研究システムの構築  
・オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進

### アクションプラン2022-2027 における関連する主な戦略

<b>戦略7</b> 研究力の強化と研究支援体制の整備 ・分野融合・学際的研究を含む強みとなる独自の卓越した研究の強化・推進 ・光工学における社会実装拠点の確立 ・アグリバイオ産業に資する研究拠点化の推進 ・URA等の育成と組織化による研究の計画・推進の支援・充実 ・研究基盤の計画的整備と施設・設備の共用化の推進	<b>戦略8</b> 地域発オープンイノベーションの先導 ・研究IRによる学内研究分析に基づいた組織対組織の共同研究・連携活動の創出 →イノベーション・エコシステムの確立 ・REALを中心とした産業界、地域社会との連携による、IoT、ロボット技術などのテクノロジーの実装、普及	<b>戦略9</b> 地域創生推進モデルの確立 ・本学の学術研究資源を活用した新たな共創的研究の発展と、研究成果の社会実装の積極的推進による資金好循環の実現 ・産学官金連携による共創体制を確立して地域創生に結びつくイノベーションを創出することで、地方自治体や地域の産業界をリード	<b>戦略17</b> 教職員の戦略的な配置 ・人事給与マネジメントの高度化による戦略的な人員配置と人材育成 ・適正な人事評価による処遇の改善
---	--	--	--

## ニーズに応じた多様な貢献活動

## 活動を支える 組織整備

## 地域社会との信頼関係の構築による共創

**▶ 概要・特徴**  
多くの教育・研究分野を有する本学には、地域社会から様々なニーズが寄せられ、それに応じた多様な貢献活動が行われています。

**▶ 強み・差別化ポイント**  
・専門的知見の提供  
→地域課題解決に向けたパートナーシップ、地域のグローバル化への対応、地域教育界との連携、各種技術支援、地方自治体の各種会議への参画など  
・地域の学び直し拠点  
→宇大アカデミー

**▶ 概要・特徴**  
地域社会との連携を一層強化し、「地域の地の拠点」として社会的ニーズに応える組織「地域創生推進機構」を設置しています。本機構には、ニーズに応じた右に示す3つの部門が有り、地域社会との総合窓口としての機能を担っています。

**▶ 強み・差別化ポイント**  
・社会共創促進センター：地域のシンクタンク機能、自治体や産業界等の多様な外部との連携・共創の一元的窓口組織  
・イノベーション支援センター：地域イノベーションの創出、知財管理に基づく研究成果の社会実装促進組織  
・宇大アカデミー：地域市民、社会人の方々学び続ける場としての仕組みづくり、環境の整備・拡充の総合的組織

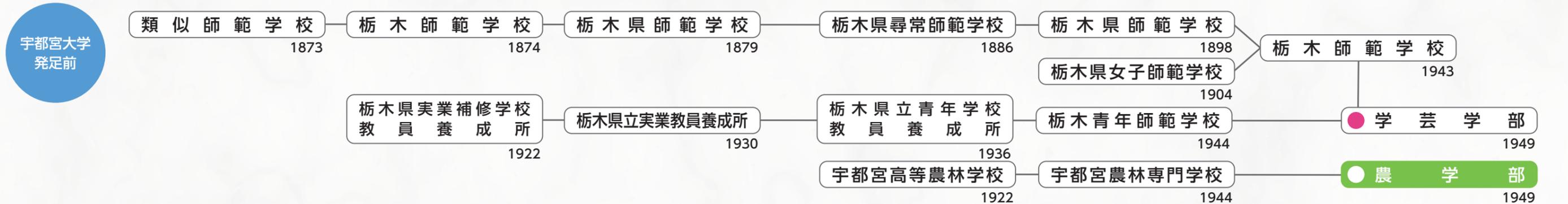
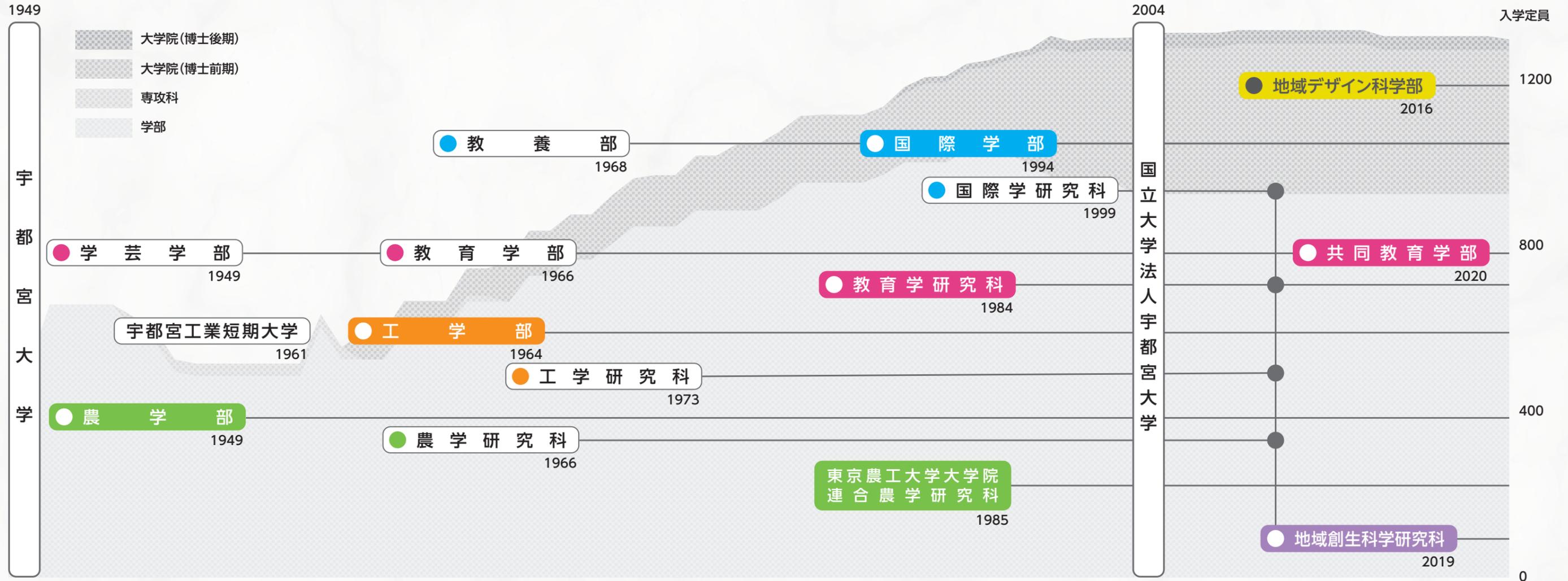
**▶ 概要・特徴**  
社会貢献を通じた多様なステークホルダーとの双方向対話を通じて信頼関係を構築し、社会共創を推進しています。

**▶ 強み・差別化ポイント**  
・社会貢献を通じた、市民、産業界、学校、自治体の関係部署等、現場のステークホルダーとの直接対話や、ステークホルダー会議における経営者層、自治体首長等からの意見・要望の聴取など、多面的な対話の機会

**▶ 大学を取り巻く社会の動向や国の政策等**  
・社会人の学び直しの多様化  
→リカレントとリスキリング  
・教員養成大学・学部、教職大学院の高度化・機能強化  
・教師を支える環境整備→学びの振り返りを支援する仕組みの構築  
<参考>中教審「令和の日本型学校教育」を担う教師の在り方特別部会中間まとめ  
・地域産業の磨き上げに資する地方大学→大学が持つ知的・人的リソースによるイノベーションの惹起  
・新産業創出の原動力としての地方大学→新たな産業の起爆剤とするべく大学のリソースの積極的な提供  
<参考>地域創生に資する魅力ある地方大学の実現に向けた検討会議(内閣府)取りまとめ

### アクションプラン2022-2027 における関連する主な戦略

<b>戦略9</b> 地域創生推進モデルの確立 ・起業に意欲がある学生や地域の起業家人材に対する研究開発支援・教育支援を行うことにより地域での起業、新産業創出に寄与	<b>戦略10</b> 地域教育界の先導 ・教員養成・研修機能の高度化と附属学校の地域のモデル校としての役割強化により、地域における質の高い教員の育成と学校支援による学校教育の質向上への貢献	<b>戦略11</b> 地域の学び直し拠点機能の拡充 ・「宇大アカデミー」の高度化・デジタル化 ・社会人向けの「ニューフロンティア・プログラム」の創設
--	---	--



## 宇都宮大学の基礎DATA



### 組織情報

**学部**  
 5学部 10学科 1課程  
**大学院**  
 2研究科 4専攻 19プログラム



### 学生

**学部** 3,977名  
**大学院** 945名  
**卒業者数(累計)** 56,184名  
**修了者数(累計)** 12,207名



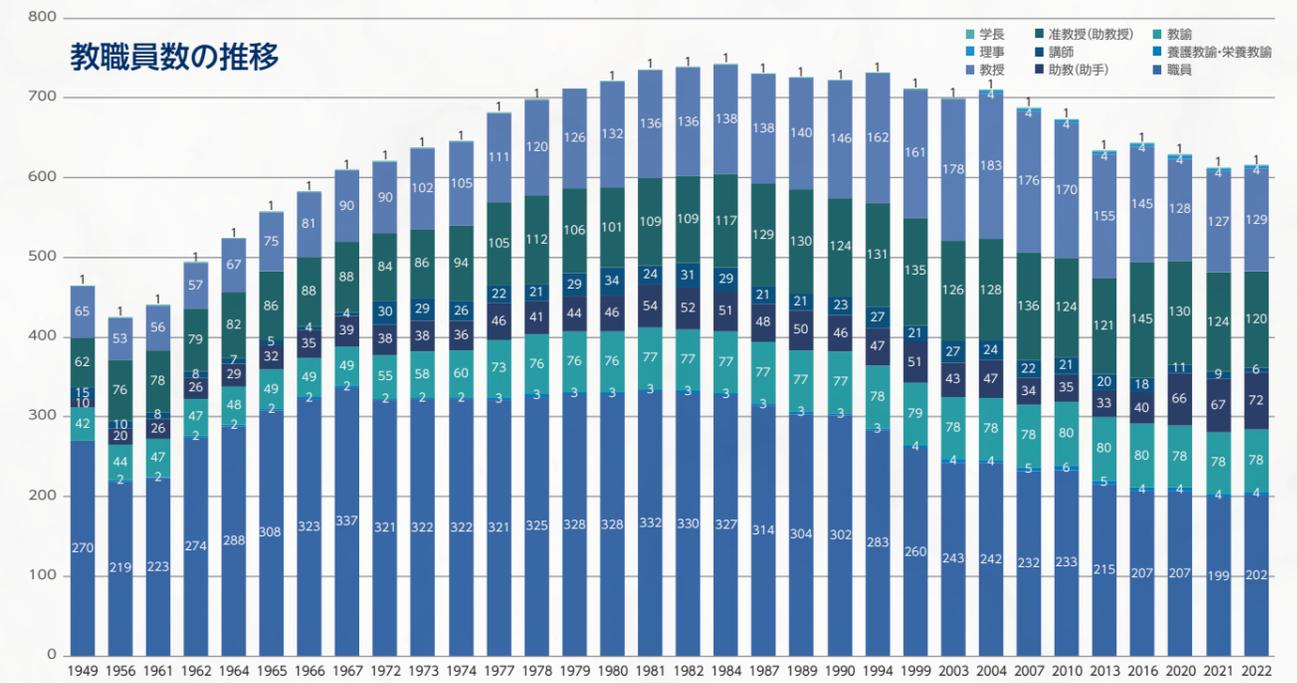
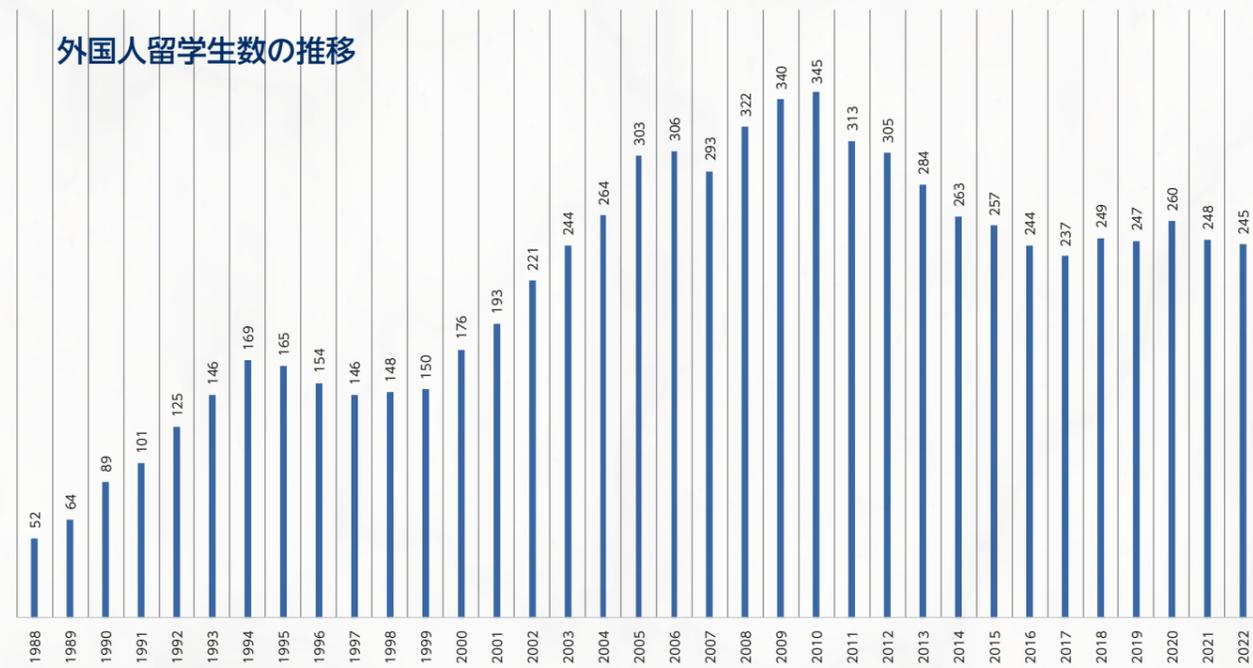
### 教職員

**役員** 8名  
**事務系職員** 202名  
**教員** 330名



### 国際・地域連携

**外国人留学生** 245名  
**海外大学協定校** 84校  
**自治体・企業等との協定数** 124件



1970年代(昭和50年代)の峰キャンパス(上)と陽東(石井)キャンパス(下)



現在の峰キャンパス(上)と陽東キャンパス(下)



## 在籍者の出身地

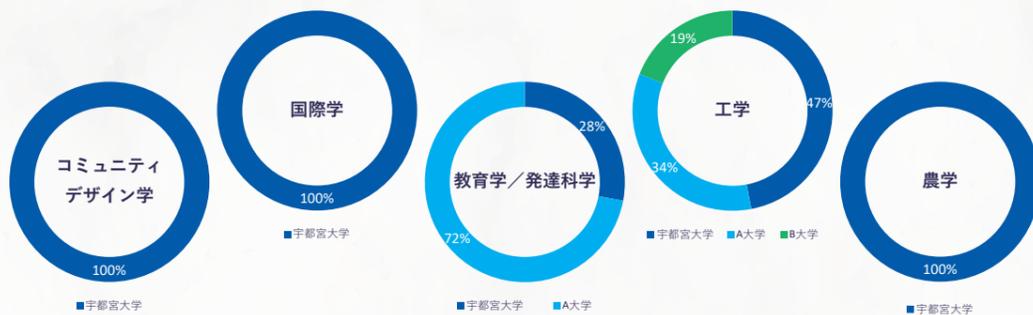
宇都宮大学の学生の出身地は全国各地に分布しています。このうち栃木県出身者は全体の3割を占め、関東と東北出身者は全体の7割以上を占めています。

UTSUNOMIYA UNIVERSITY



## 栃木県内の大学における収容定員のシェア (学位ベース)

宇都宮大学は栃木県唯一の国立大学であり県内の他の四年制大学にはない学問分野(コミュニティデザイン学、国際学、農学)を有しています。また共同教育学部は全ての教員免許が取得できる唯一の教員養成学部です。



## 学士課程卒業者の就職率の推移

宇都宮大学の学士課程(学部)卒業者の就職率は、文部科学省が公表する全国の大学の平均を常に上回っています(左図)。コロナ禍においても学生の就職活動を確実に支援し、就職率は過去10年で最高となりました。また、学士課程の実就職率\*においても高水準を維持しています(右図)。

\*「就職者数÷(卒業生数-大学院進学者数)×100」の計算式によって算出したもので、「就職希望者に対する就職者の割合(左図)」で算出される就職率と比較して低くなる傾向にありますが、より実態に即した状況が表されると言われています。



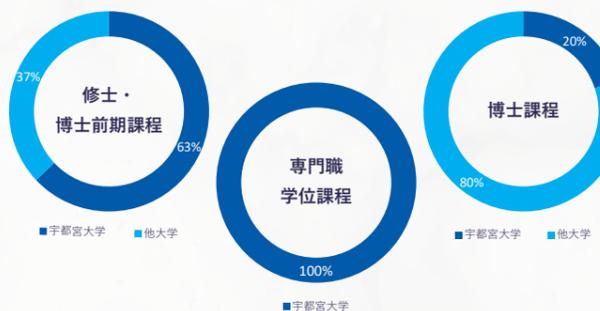
## 女性教職員比率の推移

宇都宮大学では、男女共同参画推進室を設置するなどして、女性が働きやすい環境を整備してきました。また、ダイバーシティ研究環境推進本部を設置して女性研究者のキャリアアップを図る施策を実施しています。



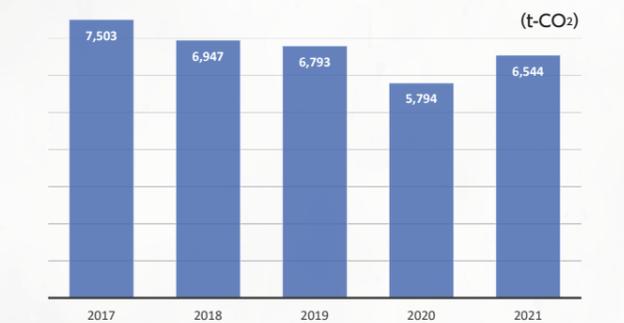
## 大学院課程の収容定員のシェア

栃木県内の大学院課程の全収容定員における宇都宮大学のシェアは、修士・博士前期課程が63%、博士課程が20%を占めます。専門職課程は本学のみが開設する教職大学院で、シェアは100%です。



## CO2排出量の推移

宇都宮大学では、CO2排出量の削減に取り組むとともに、演習林の森林を活用したCO2吸収量増加を図ることでゼロカーボンユニバーシティを目指しています。



## 経済波及効果算出の目的

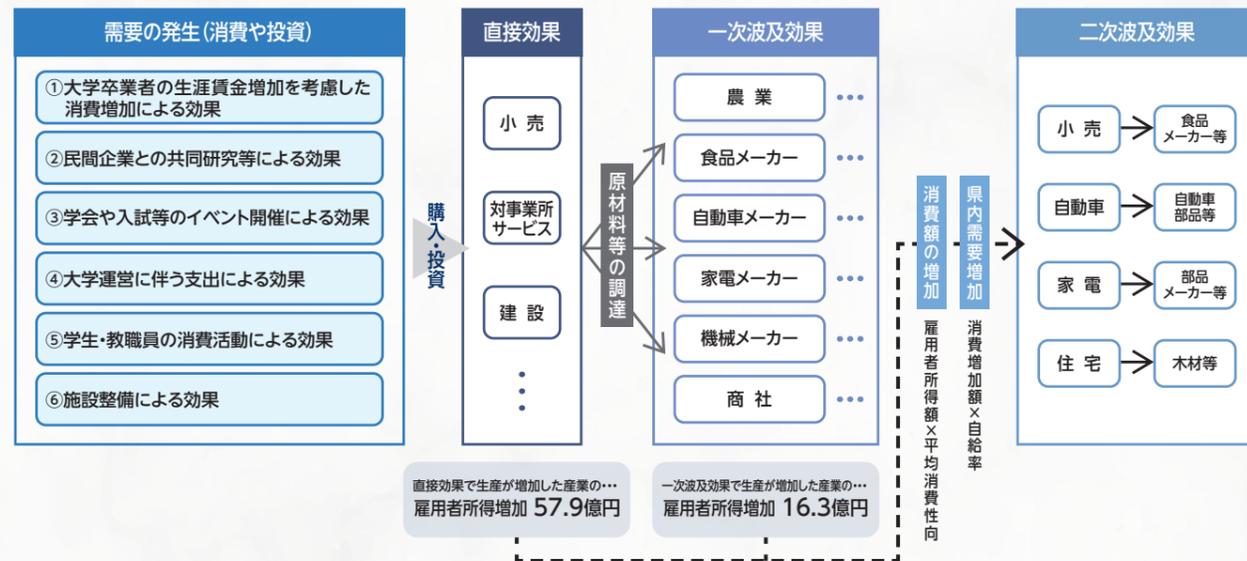
近年、大学では地域貢献が重要なテーマとなっています。少子高齢化、人口減少を背景とする地域経済の衰退等の諸問題に対して、大学に期待される役割も大きくなっています。本調査は、宇都宮大学の様々な経済的な活動によって、所在地である栃木県に生じている経済波及効果を算出し、地域経済への貢献度合いを定量的に把握することを目的としています。

## 経済波及効果算出の方法

一般的に大学が立地していることによる地域への経済効果は、学生や教職員の消費活動や校舎等の施設整備等によってもたらされます。本調査では、宇都宮大学が栃木県に対してもたらす効果を下に示す6つに分類・定義し、経済波及効果の算出を行っています。なお、推計については、新型コロナウイルス感染症の影響の少ない宇都宮大学の2019年度財務情報に基づき、栃木県の「2015年栃木県産業連関表」を用いて算出を行っています。

調査区分	具体的な内容
①大学卒業生の生涯賃金増加を考慮した消費増加による効果	宇都宮大学の教育を受けたことに伴う、個人所得の増加(高卒と宇大卒の生涯所得差)を考慮した生涯消費額の差を算出。この消費の増加により県内にもたらされる経済波及効果を推計。
②民間企業との共同研究等による効果	民間企業との共同研究等により製品化が実現したことに伴う企業の売上増加によってもたらされる経済波及効果を推計。
③学会や入試等のイベント開催による効果	学会や入試等のイベント開催に伴う来訪者の消費活動により県内にもたらされる経済波及効果を推計。
④大学運営に伴う支出による効果	大学運営に伴う諸経費(研究資材や消耗品費等)の支出により県内にもたらされる経済波及効果を推計。
⑤学生・教職員の消費活動による効果	学生や教職員の日常の消費活動(食費や家賃支払、交際費等)により県内にもたらされる経済波及効果を推計。
⑥施設整備による効果	校舎の新築や修繕等、施設整備に係る投資によって県内にもたらされる経済波及効果を推計。

## 宇都宮大学の経済波及効果の全体像



経済波及効果(生産誘発額)	直接効果	一次波及効果	二次波及効果	合計
	234.5億円	64.3億円	44.3億円	343.2億円
その内 付加価値額	150.2億円	34.4億円	28.8億円	213.4億円
その内 雇用者所得	57.9億円	16.3億円	10.5億円	84.7億円
その内 営業余剰等	92.3億円	18.1億円	18.3億円	128.7億円

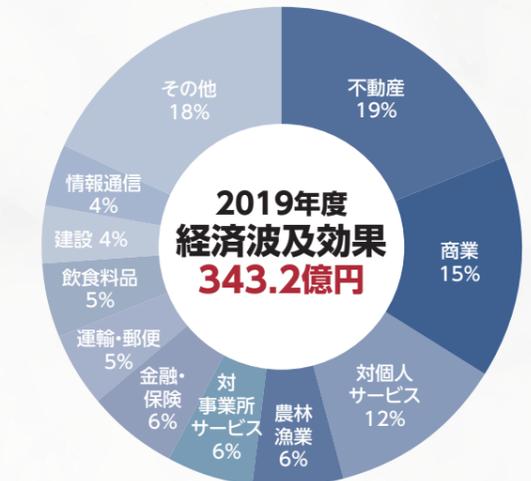
## 項目別の経済波及効果(生産誘発額)

■経済波及効果を項目別にみると、「①大卒者の生涯賃金増加を考慮した消費増加による効果」が180.4億円と最も大きく、次いで「⑤学生・教職員の消費活動による効果」が95.5億円となりました。

調査項目	経済波及効果 (①直接効果 + ②一次波及効果 + ③二次波及効果)
①大学卒業生の生涯賃金増加を考慮した消費増加による効果	180.4億円 (①125.3 + ②31.6 + ③23.5億円)
②民間企業との共同研究等による効果	21.8億円 (①14.8 + ②5.5 + ③1.5億円)
③学会や入試等のイベント開催による効果	6.2億円 (①4.0 + ②1.3 + ③0.9億円)
④大学運営に伴う支出による効果	20.7億円 (①13.3 + ②3.7 + ③3.7億円)
⑤学生・教職員の消費活動による効果	95.5億円 (①65.0 + ②18.6 + ③11.9億円)
⑥施設整備による効果	18.4億円 (①12.0 + ②3.5 + ③2.9億円)
	合計 343.2億円

## 業種別の経済波及効果(生産誘発額)

■業種別では不動産や商業、対個人サービスなど個人消費関連業種のほか、農林漁業などに多くの経済波及効果をもたらされています。



## 地域経済への貢献を高めるための取組

栃木県経済へのさらなる貢献を果たすためには、次のような取組が重要となり、宇都宮大学として、今後より一層推進させていきます。

- ①県内高校生の入学者の増加  
→これによる県内就職者の増加
- ②県内企業等とのマッチング強化による共同研究等のさらなる推進
- ③入学志願者数の増加、学会等のコンベンションの開催、大学施設の外部への提供(ロケ、各種試験等)  
→来訪者の増加による消費活動の活性化
- ④大学運営費の安定的確保や研究予算、施設整備予算の獲得

## 本調査結果を踏まえた今後の展開

以上のように、宇都宮大学が栃木県に立地することにより一定の経済効果を生み出しています。栃木県内には、本学を含め19の高等教育機関があり、約2万5千人の学生が在籍し、多くの卒業生・修了生を輩出しています。これら全体による栃木県への経済波及効果は相当程度になると予想され、それを算定することも、今後の本県の高等教育機関の在り方を再認識するうえで重要であると考えます。また、最も経済効果をもたらす要因は、県内出身者及び県外からの流入者がいかに地元に着住するかであり、これは栃木県の人材育成戦略、産業成長戦略、地域・環境戦略の要諦でもあります。

栃木県を始めとした自治体、産業界、経済界、教育界、大学等が恒常的に対話する場を設けて情報を把握・共有し、地域課題の解決に向けた連携協力体制を構築することで、地域の高等教育機会の確保、地域人材の確保、地域社会の維持発展を図るための仕組みである「**地域連携プラットフォーム(仮称)**」の構築の必要性を提起していきたいと考えています。  
※中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のブランドデザイン」答申(2018.11)において提言



# ステークホルダーのみなさまへ

## 学長メッセージ

国立大学法人は、2022年度から2027年度までの向こう6年の第4期中期目標・中期計画期間に入りました。宇都宮大学はこれに合わせ、国から提示された中期目標に対する計画と大学が独自に取り組む戦略からなる総合的な事業計画として「アクションプラン2022-2027」を策定しました。

新型コロナウイルス感染症の流行によるデジタル・トランスフォーメーション(DX)の加速化、グローバル化の一層の進展、SDGsやグリーンリカバリーの実現をはじめとする地球規模の課題解決、ビッグデータ・IoT・人工知能(AI)等を核とした第4次産業の振興など、時代が大きな転換点を迎える中で大学に対する期待は益々高まっています。

予測困難な時代において、新たな価値の創造と社会基盤構築の先導、知の創出とそれを担う人材育成が大学に課された重要な役割であるとの認識のもと、喫緊の課題であるデジタル技術を駆使した教育・研究・社会貢献の機能強化、地域で活躍する人材の育成や新たな産業の創出などの地方創生の中核としての役割をこれまで以上に果たしていくことが必要です。アクションプラン2022-2027はこれらを背景として策定されています。

ACTION PLAN & FINANCIAL 統合報告書は、従来のアクションプラン成果報告書(非財務情報)とFINANCIAL REPORT(財務情報)の統合を目的として2019年に初号を発行してから本号で4報目を数えます。これまでの3報で報告した非財務情報は、アクションプラン2016-2021に対する成果を中心としてきましたが、新たなアクションプランのスタートの年に発行する本号では、アクションプラン2022-2027で取り組むべき主な内容をベースに編集しております。また、新たな内容として、多くの企業の統合報告書で分析・掲載されているバリューチェーン(価値連鎖)のフレームワークを応用した独自の分析や、2022年3月にオープンした新しい女子寮「セキスイハイムさくら寮」の入居者インタビューなどの特集記事を加えています。なお、アクションプラン2022-2027での主な取組を以下で簡単にご紹介します。(詳しくはp17~32をご覧ください。)

### 【Vision 1：未来を切り拓く人材の育成】

- ▶ 全ての学生に身につけて欲しい6つの汎用的能力「宇大スタンダード」をベースとして、専門教育を通じた実践的で専門的な知識・技能を身に付けることができる教育を行っていきます。
- ▶ コロナ禍によって急速に進んだ教育のデジタル化を好機と捉え、学修効果の高いブレンディッド・ラーニングを推進していきます。
- ▶ 地域からのニーズが高いデータサイエンスと経営が学べる新学部の創設を目指します。

### 【Vision 2：持続可能な社会の実現に資する研究】

- ▶ 特色のある教育研究施設である「オプティクス教育研究センター」が中心となって、光工学における社会実装拠点を目指します。
- ▶ 世界的な研究成果をあげている植物分子農学分野を中核としたアグリバイオ産業に資する研究拠点を目指します。

### 【Vision 3：対話から生み出される社会共創】

- ▶ 社会人の学び直しプログラムとして定評のある「宇大未来塾」

や「UUカレッジ」に加え、地域企業の経営者層をターゲットとした新たな社会人向けプログラム「ニューフロンティアプログラム」を創設します。

- ▶ 大学としては初めて米の新品種として登録した「ゆうだい21」を戦略的に普及させるためのプロジェクトを展開し、全国的な生産拡大を目指します。

### 【Vision 4：学内のコンセンサスに立脚した組織運営】

- ▶ 2021年3月に設置した「ステークホルダー会議」の機能を最大限に活かし、ステークホルダーとのエンゲージメントを通じた信頼関係を構築していきます。
- ▶ 人事給与マネジメントの高度化によって、組織の新設や改組に対応するための柔軟かつ迅速な人員配置を行うとともに、多様な人材の確保を行っていきます。

宇都宮大学は、これまでに培ってきた3C精神(Challenge, Change, Contribution)に「3Cアクション」(Connect：主体的に社会と繋がり、Commit：責任を持って社会に関与し、Collaborate：多面的に社会と協働する)を加えた「3C精神×3Cアクション」によって、構成員一人ひとりが様々な新しい試みに複眼の視点を持って挑戦することで、アクションプランの達成に向かうとともに、地域や社会のニーズを的確に捉えながら、未来社会を見据えた人材育成・研究に全力で取り組み、地域からの信頼と期待に応え、Well-being社会の実現に貢献する「成長し続ける大学」を目指します。

2022年12月

国立大学法人宇都宮大学長

池田 卓



## ACTION PLAN & FINANCIAL

### 2021年

4月

- ・池田新学長を中心とした新たな役員体制発足
- ・地域創生科学研究科(博士後期課程)設置
- ・研究推進機構 設置
- ・陽東キャンパス学生プラザ供用開始



6月

- ・ステークホルダー会議開催(第4期中期目標・中期計画(案)について)

7月

- ・ステークホルダー会議開催(高大接続、新学位プログラム設置構想等について)
- ・2020年度入学生(コロナ禍による入学式の中止、オンライン授業が中心となった学年)全員を対象とした学長との懇談会を実施
- ・社会共創促進センター開所
- ・バーチャルオープンキャンパス 2021特設サイトを開設



9月

- ・withコロナの宇都宮大学 キャンパスの学生たち【YouTube動画】を公開
- ・第2回コラボレーションフェア開催
- ・大学拠点接種(新型コロナウイルス感染症に関連した大学等におけるワクチン接種)の開始



10月

- ・世界展開力強化事業(UU-A) 第1回連続国際シンポジウムを開催
- ・2021キャリアフェスティバル(オンライン)を開催



11月

- ・9県10会場にて「学生及び保護者との懇談会」を開催
- ・宇都宮大学の立地による地域への経済波及効果を算出・公表(あしぎん総合研究所との共同)
- ・大学院地域創生科学研究科博士後期課程先端融合科学専攻設立記念シンポジウムを開催
- ・新女子寮ネーミングライツパートナー決定



12月

- ・「ゆうだい21」が茨城県の「いばらき米の極み頂上コンテスト」で1~3位を独占

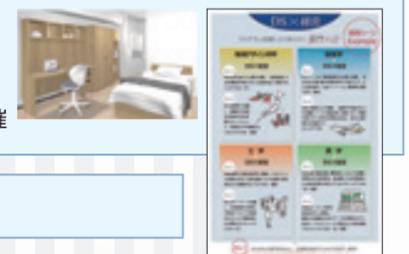
### 2022年

2月

- ・第63次南極地域観測隊に参加の附属小学校教諭が南極昭和基地からの中継授業を実施

3月

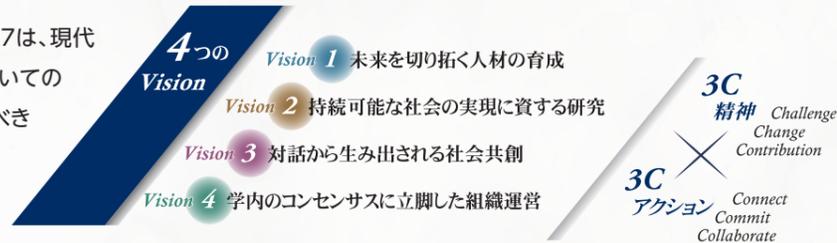
- ・新しい女子寮「セキスイハイムさくら寮」オープニングセレモニーを挙げる
- ・データサイエンス×経営副専攻プログラムを開設
- ・大学の世界展開力強化事業「UU-AStudentAummit2022」開催



4月

- ・アクションプラン2022-2027スタート

宇都宮大学アクションプラン2022-2027は、現代社会の変化と、大学が果たすべき役割についての認識に基づき、本学が6年間で成し遂げるべき目標を4つのVisionとして定め、その実現を目指した17の戦略を掲げるものです。



## 4つのVisionと17の戦略

### Vision 1 未来を切り拓く人材の育成

Society 5.0を見据えた複眼的な視野や汎用的能力、専門知をもって主体的に学修・行動し、新たな価値を創造して地域から未来を切り拓く人材を育成します。

#### 戦略1 学修者本位の教育の実現

- 入口から出口まで一貫したポリシーの下での人材育成を確立するために、各教育プログラムのカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを見直した上で、新たなアドミッション・ポリシーを設定します。
- 文理複眼的視点と汎用的能力を身に付けさせるために、基盤教育を中心に各教育プログラムの精選・見直しを進め、「宇大スタンダード」の着実な修得を目指します。
- デジタル技術を有効活用してブレンディッド・ラーニングを段階的に取り入れ、デジタル学修コンテンツの充実と対面授業での活動の質的深化を図ります。
- 学生の学修意欲を高め主体的な学修を確立するために、学修の質を継続的に検証・可視化するとともに、学生の獲得能力を社会に説明するためのディプロマ・サプリメントを開発し運用します。

#### 戦略2 時代を先導する教育組織・プログラムの創出

- 地域社会や産業界が求める数理・データサイエンスの素養を持ち、経営学の基礎と特定の分野の経営に関する実践的な知識を身に付ける新たな学位プログラムを創設します。
- 全学生対象のデータサイエンス教育を拡充するとともに、各学部において<データサイエンス×経営>を学べる副専攻プログラムを開発し、社会が求めるスキルとデザイン力の育成に努めます。

#### 戦略3 実践的な大学院教育の推進

- 文理をまたがる指導教員体制のもとで、地域社会・産業界との共同研究、連携プロジェクト、フィールドワーク、長期インターンシップ、分野融合・学際的な修士論文研究課題等のフィールド教育を積極的に導入し、幅広い視野を持った高度専門職業人を養成します。

#### 戦略4 共修によるグローバルキャンパスの構築

- 留学生と日本人学生の共修科目の導入や「グローバル人材育成プ

- Vision 1 未来を切り拓く人材の育成
- Vision 2 持続可能な社会の実現に資する研究
- Vision 3 対話から生み出される社会共創
- Vision 4 学内のコンセンサスに立脚した組織運営



ログラム」の刷新等により、多様な価値観に触れる機会を拡充して国際感覚豊かな学生を育成します。

#### 戦略5 高大接続改革と新たなアドミッションの展開

- 高大連携活動を拡充・強化するとともに、高大連携事業として実績のある科学人材育成プログラム(iP-U)を活かした高大接続入試を実施して、iP-Uで育成したポテンシャルの高い人材を迎え入れ、科学や地域社会の発展に熱意を持つ優秀な人材の育成に寄与します。
- これまでの入学者等の実績や各種動向調査を踏まえたエビデンスベースの入試戦略を立案・実施するとともに、新しいアドミッションポリシーに合致した選抜方法を確立して、本学の学びにマッチした資質・能力を有する入学者の安定的な確保に努めます。

#### 戦略6 学生の多様なニーズへの支援の充実

- 様々な背景を持つ学生へのサポートを拡充し、誰もが安心して共に学ぶインクルーシブな環境を整備します。
- 学生へのメンタルヘルスケアの充実とともに、手厚い経済的支援を拡充します。

### Vision 2 持続可能な社会の実現に資する研究

基礎研究の深化と特長ある先端研究、地域イノベーションに資する応用研究を推進し、地域から世界へ広がる幅広い課題の解決に資する研究によって、持続可能な社会の実現を目指します。

#### 戦略7 研究力の強化と研究支援体制の整備

- 研究推進機構の先導のもと、分野融合・学際的研究を含む本学の強みとなる独創的で卓越した研究を強化、推進します。
- 日本初の光工学の学位を授与する大学として、オプティクス分野の教育研究の集約と体系化、国際化を進め、光工学社会実装拠点の確立を目指します。
- 世界レベルの研究ポテンシャルを有する植物分子農学分野を中核に、持続可能なアグリバイオ産業に資する研究拠点化を目指します。
- 研究基盤を計画的に整備し、施設・設備の共用化を推進します。
- URAや技術支援人材の育成と組織化を進めて、研究の計画・推進

の支援を充実させます。

#### 戦略8 地域発オープンイノベーションの先導

- 研究成果を社会実装につなげるイノベーションエコシステムの確立を目指して、研究IRによる学内研究の分析を基に、組織対組織の共同研究、連携活動の創出と共同研究講座の設置を進めてイノベーションに結びつく知を創出します。
- 雑草学分野で国内唯一の教育研究組織である雑草管理教育研究センターを始めとして、本学でしか培えない技術と知見を社会展開するとともに、その普及と実装を担う人材を育成します。
- ロボティクス・工農技術研究所(REAL)を中心に、産業界、地域社会と連携して、IoT、ロボット技術などの普遍的に求められるテクノロジーの実装、普及を進めるとともに、それらの研究開発人材を輩出してSociety 5.0の実現に貢献します。

### Vision 3 対話から生み出される社会共創

多様なステークホルダーと双方向対話を通じた強い信頼関係を構築し、地域の活性化に資するハブ的役割を担って新たな社会共創モデルを確立します。

#### 戦略9 地域創生推進モデルの確立

- 地域及び産業界とともに地域課題・社会的期待を見出し、産学官金連携による共創体制を確立して地域創生に結び付くイノベーションを創出することで、地方自治体や地域の産業界をリードします。
- 本学の学術研究資源を活用して新たな共創的研究を展開するとともに、研究成果の社会実装を積極的に進め、資金の好循環を実現します。
- 起業に意欲がある学生や地域の起業家人材に対する研究開発支援・教育支援を行って地域の起業、新産業創出に寄与します。

#### 戦略10 地域教育界の先導

- 学部・教職大学院・附属学校が一体となって教員養成・研修機能の高度化を図るとともに、附属学校の地域のモデル校としての役割を強化し、地域における質の高い教員の育成と学校支援による学校教育の質向上に貢献します。

#### 戦略11 地域の学び直し拠点機能の拡充

- ニューノーマルのリカレント教育構築のために、本学独自の社会人学び直しプログラムである「宇大アカデミー」の高度化・デジタル化を図ります。
- 新たな社会人向けプログラムとして地域企業の経営者層をターゲットとした「ニューフロンティア・プログラム」を創設します。

#### 戦略12 豊かな教育研究フィールドの活用と社会還元

- 本学が有する充実したフィールド教育・研究施設とフィールドサイエ

- ンスに関する実践的ノウハウを積極的に活用し、大学間連携を推進するとともに、社会との共創による成果の普及・還元に努めます。
- 優良食味米として評価の高い「ゆうだい21」の戦略的普及により、生産者主導の新たな水稲普及モデルの確立を目指します。

### Vision 4 学内のコンセンサスに立脚した組織運営

全構成員が大学のビジョンを共有し、当事者意識を持った一体的な組織運営を行い、取組の成果についてステークホルダーに対する説明責任を果たします。

#### 戦略13 構成員との意思疎通によるビジョンの共有

- 定期的なコミュニケーションの場を設けることによって大学のビジョンを全構成員が共通理解するとともに、達成に向けた具体的な取組を提案できる風通しのよい組織を形成します。

#### 戦略14 ステークホルダーを巻き込んだ大学経営モデルの構築

- 多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じた信頼関係を構築し、計画の進捗状況のチェック、成果の検証、計画の見直しの一連のサイクルを確立します。
- ステークホルダーに対し、統合報告書などによって多角的な経営情報を開示して意見等を聴取し、経営の改善に役立てます。

#### 戦略15 安定した財務基盤の確立

- ステークホルダーとの相互理解の獲得と互恵的協働により新たな投資を呼び込むとともに、保有資産の最大限の有効活用に努め、安定した財務基盤の確立を図ります。
- 成果を中心とする実績に基づき、強みの伸長と課題への対応に最大限の効果を生み出す戦略的な資源配分を行います。

#### 戦略16 働き方改革の推進によるワークライフバランスの実現

- DX(デジタル・トランスフォーメーション)の推進により、業務のさらなる効率化を図るとともに、リモートワークシステムを構築して勤務形態の柔軟化を進めるなど、ワークライフバランスの実現を目指します。

#### 戦略17 教職員の戦略的な配置

- 人事給与とマネジメントの高度化によって戦略的な人員配置と人材育成を行い、年齢バランスの適正化を図るとともに、若手・女性を積極的に採用して多様性の確保に努めます。
- 適正な人事評価による処遇の改善を図ります。

## Getting Started

本年度は、アクションプラン2022-2027のスタートの年となります。前アクションプラン2016-2021の成果をベースとして、今期のアクションプランにおける主な戦略の取組と展望についてご紹介します。

### Vision 1

## 未来を切り拓く人材の育成

### 戦略 1

## 学修者本位の教育の実現①

### 汎用的能力の設定と獲得実感の可視化

▶本学では、入学した全ての学生に身につけて欲しい6つの汎用的能力を「宇大スタンダード」として定め、これをベースとして、専門教育を通じた実践的で専門的な知識・技能を獲得させる教育課程を編成し、幅広い教養と行動知性を備え、未来の社会を拓き支える人材を育成しています。

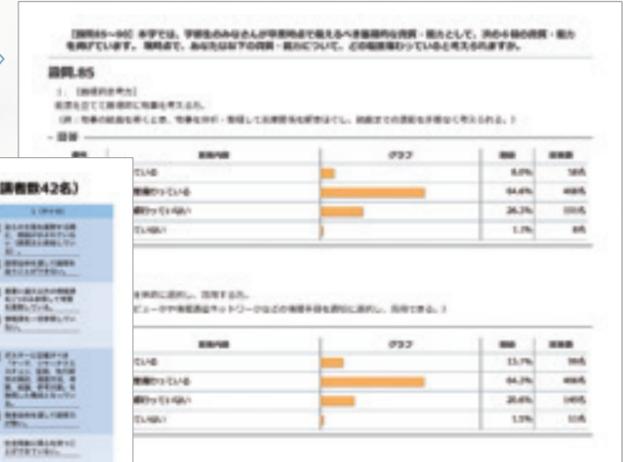
#### 「宇大スタンダード」で定める6つの汎用的能力

- ＜論理的思考力＞ 筋道を立てて論理的に物事を考える力。
- ＜情報活用能力＞ 情報及び情報手段を主体的に選択し、活用する力。
- ＜表現力＞ 感情や思考などを伝達可能な形式に表し、効果的・印象的なものとして伝える力。
- ＜学修力＞ 一人称で物事を捉え自ら行動し、進んで新しい知識・能力を身に付けようとする力。変化に対応し、自らを変えようとする力。
- ＜協働能力＞ チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす力。多様な人々との繋がりを協働を生み出す力。
- ＜課題解決力＞ 多面的な視点から現状を分析し、目的や課題を明らかにする力。課題解決に向けた計画を立案し、自律的に取組む力。

宇大スタンダードの各能力の獲得状況は、1年次と3年次で行う「学生総合調査」によって測定され、その結果は教育方法の改善に活用されます。

基礎教育科目「アカデミック・スキルズ」のルーブリック (受講者数42名)

項目	1年次	3年次
学修力	85%	90%
協働能力	75%	80%
表現力	70%	75%
情報活用能力	65%	70%
論理的思考力	60%	65%
課題解決力	55%	60%



※ルーブリック/学習目標の達成度を判断するため、評価の観点(基準)と尺度を段階に分けて文章化しこれをマトリクス表として示した。ルーブリック評価とは、この表を用いて学生自身が自己評価を行い、それを踏まえて教員が評価するという学修評価法。

授業科目単位では、宇大スタンダードの獲得状況をルーブリック\*を用いて多面的評価を行い、学生が成長実感をもつことが可能となる学修成果可視化システムの構築を進めています。



宇大スタンダードの概要をリーフレットにまとめ、1年生全員が履修する「新入生セミナー」で周知しています。

## 宇大での4年間の学び DP x UUSTD

みなさんが大学を卒業した後に活躍することになる社会では、多種多様な力や知識・技能、さらには教養や知性が必要になります。宇都宮大学では、これらの中から特に重要と思われるものをしっかりと身につけてもらうために、学位授与の方針である「ディプロマ・ポリシー (DP)」のもと、汎用的能力である「宇大スタンダード」を定めています。

みなさんは、ここに記されている力を獲得することを常に意識しながら、宇大での4年間の学びをスタートさせましょう。その上で、授業以外にも様々な経験を通じ、社会に力強く歩み出してほしいと願っています。

宇都宮大学は、入学したすべての学生が、6つの力からなる宇大スタンダードと、専門分野に関する知識・技能を獲得した上で卒業できるように教育を行います。

基礎教育から始まる宇大での学び。大学での学び方を確実に身につける。

大学での学びとはどのようなものか。基礎教育を通して、高校までの学びと大学での学びの違いを理解し、自分の学びを自分自身でコントロールできるようにしよう (学修力)。その際には、主体的に興味関心の幅を広げ、新たな知の世界へと踏み出すことで、自分の強みや足りないものを強く自覚することが重要。何を学びたいのか、何を学ばなければならないのかを深く理解することが、自身の学びをコントロールすることへとつながっていくはず。このようにして身につけた学修力は、4年間の学びの強力な原動力になります。

### 1年次

＜学修力＞  
一人称で物事を捉え自ら行動し、進んで新しい知識・能力を身に付けようとする力。変化に対応し、自らを変えようとする力。

### 宇都宮大学の教育目標

- 1 基礎教育を基盤として、現代社会に必要な汎用的能力 (宇大スタンダード) を育成します。
- 2 専門教育を通して、実践的で専門的な知識と技能を習得します。
- 3 それらのふたつを有機的に結びつけた4年一貫教育により、幅広い教養と行動的知性を備え、未来の社会を拓き支える人材を育成します。

### DP

全学共通のディプロマ・ポリシー (DP)  
宇都宮大学は、教育目標に定める幅広い教養と行動的知性を備えた人材を育成するために、所定の課程で学ぶに必要な単位を履修し、「宇大スタンダード」に定める汎用的能力と、所属学部において定める専門分野に関する知識・技能を獲得した者に学位を授与します。

### UUSTD

宇大スタンダードの6つの力  
「宇大スタンダード」は、宇大での4年間の学びを通して獲得すべき6つの汎用的能力を意味しています。これらの汎用的能力は、大学での学びに留まらず、職業や社会生活の中でも活用されることが期待されています。



専門分野の学びを本格的に始める。社会を理解し、社会に発信する力を身につける。

学年が進むと、専門分野に関する深い学びがスタートします。1年次で培った学修力を見直し、学問の世界や世の中のことについて主体的に探求を積み、知識を身につけていきましょう (情報活用能力)。情報や知識をインプットするだけでなく、それをもとに結び強く思考を巡らせ (論理的思考力)、自分の考えを発信していくことも重要で (表現力)、こうした姿勢は、社会に出た後にも強く求められます。

### 2年次

＜情報活用能力＞  
情報及び情報手段を主体的に選択し、活用する力。

### 3年次

＜論理的思考力＞  
筋道を立てて論理的に物事を考える力。

＜表現力＞  
感情や思考などを伝達可能な形式に表し、効果的・印象的なものとして伝える力。

4年間の学びの集大成としての卒業研究。大学生生活を振り返りその後のキャリアに活かす。

最終年次では卒業研究に取り組みます。その過程で、多くの仲間たちと支え合いながら学びを進めていくことの重要性に気づくでしょう (協働能力)。さらには、卒業研究を通して疑問と懸念を解消した経験は、その後のキャリアで直面するであろう壁に立ち向かう際に大きな自信を与えてくれます (課題解決力)。就職や大学院進学など、どのような道に進んだとしても、宇大スタンダードの6つの力と専門分野の知識・技能がみなさんを支えてくれるはずです。

### 4年次

＜協働能力＞  
チームの中で協力しながら自分の役割や責任を果たす力。多様な人々との繋がりを協働を生み出す力。

＜課題解決力＞  
多面的な視点から現状を分析し、目的や課題を明らかにする力。課題解決に向けた計画を立案し、自律的に取組む力。

※ルーブリックでは、宇大スタンダードの6つの力の評価項目に基づいて設定した1年次～3年次の評価項目を、各能力ごとに設定しています。また、「学修力」は1年次～3年次の評価項目に基づいて設定しています。また、「協働能力」は4年次～6年次の評価項目に基づいて設定しています。宇大スタンダードの6つの力は、すべての学年においてしっかりと履修し、学びを進めるようにしてください。

### ブレンディッド・ラーニング型授業導入率100%に向けて

▶新型コロナウイルス感染症拡大により、オンライン授業を余儀なくされるなど、思わぬ状況下で教育のデジタル化が急速に進む結果となりました。本学はこれを好機と捉え、アクティブ・ラーニング型授業の開講率100%の実績をベースとして、学修効果の高いブレンディッド・ラーニング\*の導入を進めてきました。2020年度には、文部科学省の「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」事業における本学の取組「ブレンディッド・ラーニングの推進と多面的評価による自律的学修者の育成～LMSと連携したe-ポートフォリオの活用を通じて～」が採択となったことで取組が加速しています。本取組では、ブレンディッド・ラーニングの導入に加え、その教育効果をルーブリック評価（前頁参照）を用いて検証するもので、2021年度にはシステムの導入が完了し、2022年度から本格的な試行が開始されています。2022年度の全学FD（ファカルティ・デベロップメント：授業改革のための組織的取組）では、ルーブリック評価についての講演会と、本学におけるブレンディッド・ラーニング+ルーブリック評価の実践事例紹介が行われるなど、全学的な取組へと発展しています。

\*ブレンディッド・ラーニング/広義では、集合研修やeラーニング、動画コンテンツなど、さまざまな学習方法を組み合わせた（ブレンドした）教育手法。本学ではブレンディッド・ラーニングの一種である反転授業を推奨しています。反転授業は、まず、講義動画やPDFの資料などを提示して基本的な知識の習得を事前学習として課し、その後の対面授業で、事前学習における知識の習得を前提とした応用的なテーマや問題に学生同士で協働で取り組む（グループワーク、フィールドワーク、ディスカッションなど）ことで、より深い理解へと導くことを狙っています。

大学改革推進等補助金（デジタル活用教育高度化事業）  
「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」

### ブレンディッド・ラーニングの推進と多面的評価による自律的学修者の育成

LMSと連携したe-ポートフォリオの活用を通じて

#### PLUS-DX推進チーム

チーム長  
長谷川 光司（教育DX担当副学長）

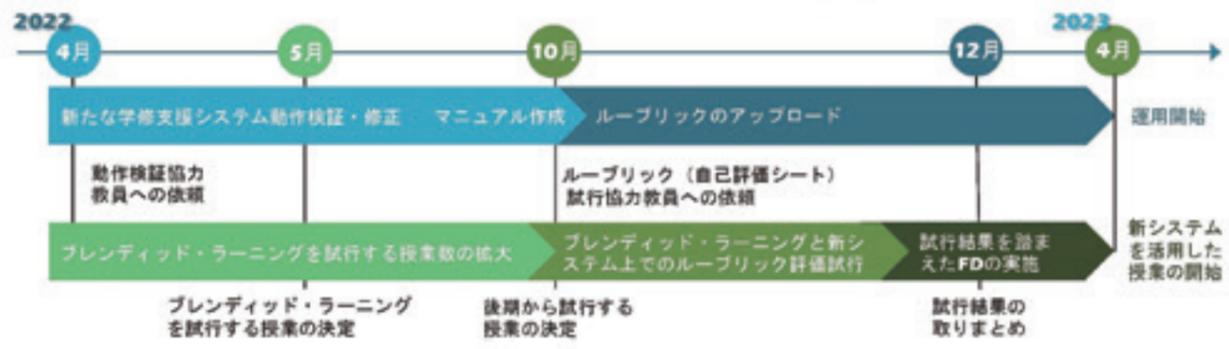
教学マネジメント企画室  
酒井 一博（共同教育学部）  
石井 和也（基礎教育センター）

各学部教務委員長  
大森 玲子（地域デザイン科学部）  
佐々木 一隆（国際学部）  
佐々木 和也（共同教育学部）  
高山 善徳（工学部）  
大澤 和敏（農学部）

吉田 聡太（大学教育推進機構）  
（教務略）

ブレンディッド・ラーニング（反転授業）

ブレンディッド・ラーニングとは、複数の授業形式を組み合わせた授業形態全般を指し、LMSと対面での学習を組み合わせた授業形態を意味する。反転授業はブレンディッド・ラーニングの一種である。反転授業では、まず、基本的な知識の習得を事前学習として課す（講義動画やPDFの資料などを提示する）。その後の対面授業では、事前学習における知識の習得を前提とした応用的なテーマや問題に、学生同士で協働して取り組む（グループワークやフィールドワーク、ディスカッションなど）。このことで、学生をより深い理解へと導くことを狙っています。



### データサイエンス×経営を学べる新学部の創設と副専攻プログラムの開設

▶本学では、地域の経済界、産業界から長年要望が寄せられていた経営学と、現代社会で最も求められているデータサイエンス\*の素養を併せ持った人材を育成する新たな学部の設置を構想しています。また、これに先駆けて、既存の学部においても、各学部の専門分野にプラスしてデータサイエンス×経営の素養を身に付けることができる副専攻プログラムを2022年度から開設しています。これらについて詳しくは、次頁でご紹介します。

\*データサイエンス/様々なデータから、必要とする情報、法則、関連性などを導き出す手法・スキル

### 科学や地域社会の発展に熱意を持つ優秀な人材の育成

▶2021年12月の閣議決定により設置された教育未来創造会議（議長：内閣総理大臣）が2022年5月にまとめた提言「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」では、人材育成を取り巻く課題として、高等学校段階の理系離れが挙げられています。

▶宇都宮大学では、2015年から2期8年間に亘り、独立行政法人科学技術振興機構（JST）の「グローバルサイエンスキャンパス」事業の支援を受けて、高校生向けの科学人材育成プログラムである「iP-U 君が未来を切り拓く～宇大の科学人材育成プログラム」（以下「iP-U」）を展開してきました。

▶「iP-U」は、将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材を育成することを目的として、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生等を募集・選抜し、国際的な活動を含む高度で体系的な、理数教育プログラムの開発・実施等を行っています。受講者は国内外の学会での研究成果の発表や起業家育成コンテストなどで入賞するなど高い成果を上げています。

▶アクションプラン2022-2027では、「iP-U」の実績を基盤として新たな高大接続入試を開発し「iP-U」で育成したポテンシャルの高い人材を迎え入れ、科学や地域社会の発展に熱意を持つ優秀な人材の育成に寄与することとしています。



### 誰もが安心してと学ぶインクルーシブな環境の整備

▶コロナ禍によって、多くの学生が集い賑わうキャンパスの日常が大きく変わりました。その影響を多く受けた学生ほど、学生生活が充実していると回答した割合が少なかったり、休学や退学者が多かったりしていることが、各種報道でとりあげられています。このような状況も踏まえ、宇都宮大学では多様な悩みを抱える学生へのケアの強化を図るため、学生相談の充実や学生同士によるピアサポートなどの様々な支援策を展開しています。

▶女子学生の増加に対し、寮全体に対する女子学生寮の戸数が極端に少ない状況を踏まえ、新たな女子学生寮を整備するなど、学生ニーズに応える環境整備を進め、学生サポートを拡充しています。

詳しくは、P25~26でご紹介します。

宇都宮大学 学生相談について

あなたが大學生生活を送るうえで、悩みや不安が生まれることは、ごく当たり前のこと。相談員があなたの悩みを聞き、一緒に考えていきます。相談員はあなたの話を聞き、一緒に考えていきます。相談員はあなたの話を聞き、一緒に考えていきます。

学生相談センター

TEL: 028-649-5275

TEL: 028-649-5189

学生相談センター

TEL: 028-649-5275

TEL: 028-649-5189

# TOPICS データサイエンス×経営を学ぶ新学部の創設と 副専攻プログラムの開設

## 宇都宮大学のデータサイエンス教育

▶宇都宮大学では、文部科学省の「大学における数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」協力校の選定を受け「文理融合型数理・データサイエンス教育推進事業 - Society 5.0の未来社会における地域変革の知の拠点-」を展開してきました。本事業では、データリテラシーと情報リテラシーを習得する全学生必修科目「データサイエンス入門」(2020~)の開講を初めとして、データサイエンスの基礎的技術を習得する「データサイエンス基礎」(2021~)、データを取得・解析して対象の理解を深め、課題解決・意思決定に役立てる実践的内容を習得する「実践データサイエンス」(2021~)を選択科目として開講し、数理・データサイエンスを日常生活や仕事場で使いこなすことができる基礎的素養を身に付ける教育プログラムを編成してきました。

▶これらの科目を「文理融合型数理・データサイエンス教育プログラム(基礎コース)」としてさらに体系化したプログラムが、2022年8月に文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に認定されました。

▶本認定制度は、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力(リテラシーレベル)や、課題を解決するための実践的な能力(応用基礎レベル)を育成するため、数理・データサイエンス・AIに関する知識及び技術について体系的な教育を行う大学等の正規の課程(教育プログラム)を文部科学大臣が認定及び選定して奨励する制度です。



## データサイエンス×経営副専攻プログラム

▶本学のデータサイエンス教育の取組をベースとして、データサイエンスと経営を体系的に学ぶ副専攻プログラム\* <データサイエンス×経営>副専攻プログラムを2022年度から開設しています。

▶<データサイエンス×経営>副専攻プログラムは、デジタル化が急速に進む中、次世代社会のあらゆる場面でデータサイエンスの知識が不可欠となっていることや、複雑化する社会の変化を理解し対応するために、経営学的な知識が重要であることなどを背景として開設したものです。

▶主専攻(学部)別に「数理・データサイエンス関連分野」「経営関連分野」「その他の分野」で構成されており、所定の科目を履修することで学修証明書が交付され、プラスαの資質能力として就職・進学におけるアピールポイントとなることが期待されます。

▶本副専攻プログラムの開設は、次頁で紹介する新学部の設置構想の先駆けとなっています。

\*副専攻プログラム/自分自身が所属する主専攻(学部・学科)以外の分野を系統的に学習するプログラム。



## データサイエンス経営学部(仮称)設置構想

▶宇都宮大学は、データサイエンスの素養と、地域社会から長年要望が寄せられていた経営学の素養とを併せ持つ人材を育成する新たな教育組織として、「データサイエンス経営学部(仮称)」を本学の6つ目の学部として設置する構想を進めています。

### データサイエンス経営学部(仮称)設置構想の概要

#### 大学を取り巻く社会変化

デジタル化やグローバル化が急速に進む中、社会は知識集約型社会へと変革しつつあり、その動きは新型コロナウイルス感染症の影響により加速化しています。こうした中、様々な社会課題の解決に資する新たな知の創出と社会を牽引する人材育成を担う国立大学には、社会の活力を維持し、更なる発展を遂げるための駆動力を発揮することが期待され、特に地方国立大学には、知の拠点として地方の発展をリードする役割が今まで以上に求められています。

#### 宇都宮大学の現状と地域のニーズ

本学には、栃木県内の高校生の進学分野として、大きいシェアを占める商学・経済学分野の教育組織がなく、若者のニーズやこの分野の人材を求める地元産業界のニーズに答えられていないのが現状です。Society 5.0社会の到来を目前に、データサイエンスの素養を持つ人材への需要が高まっている今、文理融合・分野複眼の教育研究体制を築いてきた本学の新たな挑戦として、時代に即した新学位プログラムを設置し、地域社会からの期待に応えたいと考えています。

#### 学部の概要

学部名称：データサイエンス経営学部(仮称)

開設予定：2024年(令和6年)4月

学科：データサイエンス経営学科(学科内にデータサイエンスと経営の2つの学系を設ける予定)

入学定員：55名(既存の5学部から定員を移行)

学位の名称：学士(経営情報学)



# TOPICS 環境整備による学生サポートの拡充

## セキスイハイムさくら寮

宇都宮大学における女子学生の住居戸数が寮全体の約22%に留まっていることから、新たに女子学生寮を建設することを決定し、2022年3月に陽東キャンパス内に完全個室全103戸(バリアフリー対応1室含む)の女子寮がオープンしました。

本学生寮は安心・安全設備(玄関オートロック装備、防犯カメラ設置、管理人滞在など)を備え、生活家電を含めた家財道具一式(机・椅子、ベッド、冷蔵庫、電子レンジなど)を標準装備するなど学生のニーズを踏まえた設計となっており、安心して快適な居住環境を提供することによって、キャンパスライフをサポートします。



さくら寮の詳細はこちら(宇都宮大学HP)

寄宿料(月額)*	部屋タイプ	定員	場所
49,000円	個室18㎡	103名 (うちバリアフリー1名)	陽東キャンパス内

\*寄宿料以外に諸経費をご負担いただけます。詳細は右の二次元コードより宇都宮大学HPをご確認ください。

宇都宮大学は他にも経済的支援を目的とした学生寮を備えています。学年や出身の異なるさまざまな個性を持つ学生が、共同スペースでの交流やより住みやすくなるための活動を通じて切磋琢磨し、個性や独創性を刺激しながら人間形成を行っています。寮での生活の中で社会性や規律を身につけ、人間的に成長していくことを期待しています。

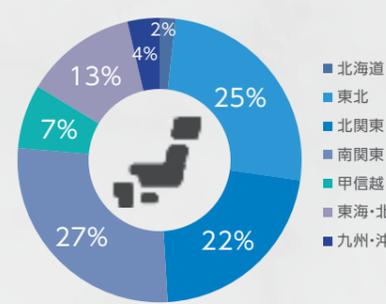
寮名	寄宿料(月額)*	部屋タイプ	定員	場所
第1寮(男子)	7,000	個室13.5㎡	36名	峰・陽東両キャンパスまで1.5km
第2寮(女子)	9,000円または11,000円	個室13.5㎡	44名	
雷鳴寮(男子)	17,000円	個室13.5㎡	36名	陽東キャンパス内
陽東寮(男子)	17,000円	個室13.5㎡	80名	

\*寄宿料以外に諸経費をご負担いただけます。詳細は右の二次元コードより宇都宮大学HPをご確認ください。

学生寮の詳細はこちら(宇都宮大学HP)



### 出身都道府県内訳 (2022.11現在)



**寮生の声**  
はじめはアパートを中心に探していましたが、両親の勧めで寮も検討し始めました。家具家電付なことはもちろんですが、何よりもセキュリティ面での安心・安全性が一番の決め手でした。

**寮生の声**  
門限などの縛りもなくアパートに暮らすような形でプライベートは保ちつつも、同じ大学の人が近くにいるので友達ができやすいです。仲の良い友達と、ラウンジに集まって映画を見たりすることもあります。会いたいときにすぐに集まれることは、寮のメリットです。

**寮生の声**  
コロナ禍ということもあり、すべての寮生と顔を合わせる機会が今までなかったので、友達になった人以外はどんな方が住んでいるのかわからないことが少し残念です。同じ学部の先輩などがいたら履修の相談ができたかな、と思いました。これから機会があればとても嬉しいです。



### さくら寮満足度 (2022.6 実施寮生アンケート)



### さくら寮交流会の実施

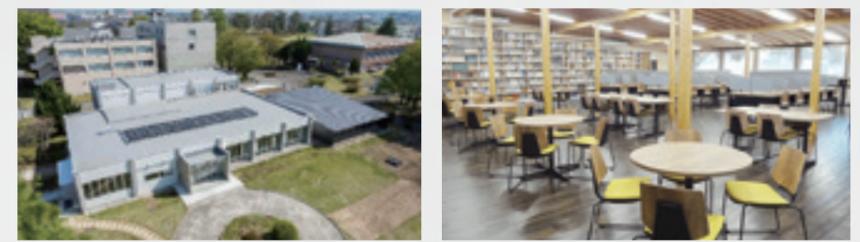


生活して約半年後の寮生から出た上記のような意見を受け、12月に顔合わせや意見交換の場となる「さくら寮交流会」を設けました。今後も寮生同士がより豊かな生活を送れるようサポートに努めていきます。

## 陽東キャンパス 学生プラザ

学生へのワンストップサービスを実現するため、陽東学務課や図書館陽東分館および保健管理センターを集約した「陽東キャンパス 学生プラザ」が2021年3月に完成しました。

図書館には閲覧スペースに加え、グループワークや共同研究のために利用できる「グループラーニングルーム」や、学生が研究・調査のために利用できる「研究個室」を設けており、多様な学修環境を提供しています。



## ラーニング・commons

ラーニング・commonsは全学生が自由に利用できる、自主的な学修のための空間です。グループワークやディスカッションに適した広い机・椅子、自由に動かせる大型モニターなど、学生同士の学びを促進する設備があり、教職員スタッフが授業時間外もアクティブな学びをサポートしています。また、一人で集中して学修したい場合や、オンライン授業・セミナーに参加する場合など、多様な用途で使用できる半個室ワーキングブースも設置し、様々なニーズに応じています。



### 特色ある研究の社会実装拠点の確立と世界レベルの研究ポテンシャルの保持・発展

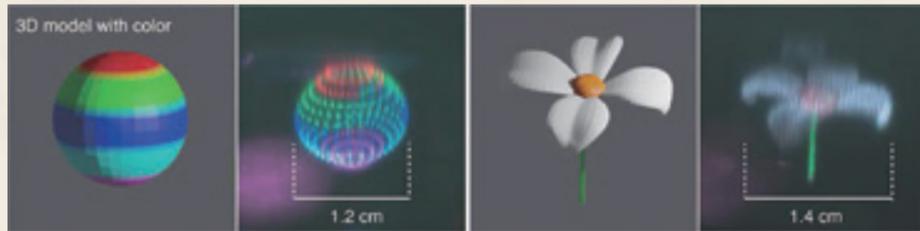
#### 光工学の社会実装拠点化

宇都宮大学は、日本初の光工学の学位を授与する学問分野を有しています。その基礎となった光工学分野の研究の躍進は、世界有数の光学機器メーカーであるキヤノン株式会社からの支援による「オプティクス教育研究センター」の設立(2007年)から始まります。それから15年、オプティクス教育研究センターは社会的に価値のある様々な成果をあげ、今後さらに進化して光工学の社会実装拠点を目指します。

#### 社会実装拠点化に向けた展望

##### 社会実装に繋がる主な研究成果

- レーザー加工技術
  - ・透明材料内部の異なる深さに同時にレーザー加工を行う、高速・高精度3次元レーザー加工装置の開発  
→半導体やガラスの切断や穴開けの更なる高速化・高精度化に貢献し、日本のレーザー加工産業の強靱化に大きく貢献
- 光通信技術
  - ・赤外光での光硬化性樹脂と、それを用いた自己形成光導波路技術による簡易接続技術の開発  
→シリコンフォトニクスや光通信分野における簡易実装技術の実現と、それによる実装コストの低減
- 映像描画技術
  - ・カラー体積3D映像を実空間に表示できるポリュメトリックディスプレイシステムの開発  
→空間を超越したコミュニケーションを可能にする映像インターフェースとしての利用



図：3Dモデルと体積3D映像

#### 地域社会の光産業の先導と海外におけるネットワーク形成

- 社会実装を志向した改組  
オプティクス教育研究センターは、これまでの研究成果をベースとしてより産学連携や社会実装を志向した活動を行うため、令和3年度より、従来の研究分類ごとに設置された3研究部門から、『スマート製造光学』『スマートICT社会光学』『リアルワールド情報光学』『自然環境光学』の4研究領域による体制へと改組を行いました。これらの研究領域の下で、11のプロジェクトが稼働しており、イノベーションの創出や社会実装への展開を志向した活動を行っています。
- 栃木県の産業成長戦略推進への取組  
栃木県における重点戦略である「とちぎ未来創造プラン(2021-2025)」を踏まえた産業戦略「新とちぎ産業成長戦略(2021-2025)」において、AI・IoT・ロボット、光学・環境・新素材を未来3技術と位置付け、戦略3産業(自動車、航空宇宙、医療福祉機器)とともに、成長戦略の柱として位置づけています。このうち「光学」については、オプティクス教育研究センターを中心に本学が県内産業の牽引役となって、発展の基盤を支えています。
- 世界各国の大学・研究機関との学術交流協定の締結 <2022.5現在：6カ国8大学・機関>◇アリゾナ大学【アメリカ：2007.10】◇カルカッタ大学【インド：2011.12】◇中央フロリダ大学【アメリカ：2012.7】◇南洋工科大学【シンガポール：2013.4】◇セントロ・デ・インベスティゲーシヨンス・イン・オプティカA.C.【メキシコ：2014.2】◇中国計量大学【中国：2014.5】◇逢甲大学【台湾：2017.11】◇西安工業大学【中国：2021.3】

### 植物分子農学分野を中核としたアグリバイオ産業に資する研究拠点化

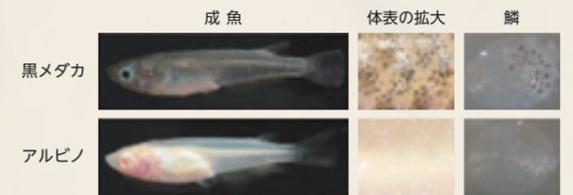
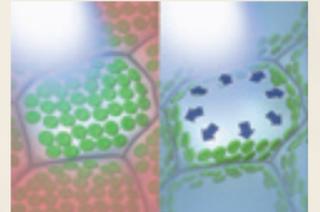
宇都宮大学における植物分子農学分野の研究は、バイオサイエンス教育研究センターを中心に世界レベルの研究成果をあげてきました。これらの実績をベースとして、持続可能なアグリバイオ産業に資する研究拠点化を目指します。

#### 研究拠点化に向けた展望

##### 世界レベルの研究成果(直近1年の主なもの)

- 植物細胞が低温域の温度を感知するメカニズムの解明
  - ・植物細胞が低温域を感知する温度センサータンパク質(フォトリピン)の発見(2017年)とフォトリピンが細胞内のどこで低温を感知するかメカニズムの解明(2022年：山口大学との共同)。いずれも世界初。
  - さらなる研究の推進により、温度による環境変化に対抗できる植物の開発の可能性
- 作物のストレス応答を制御する分子の開発
  - ・植物ホルモンの一種でストレス耐性を誘導するシグナル物質アブシシン酸(ABA)の負の作用を効果的に打ち消す化合物「アンタバクチン」の開発(2021年：カリフォルニア大学リバーサイド校が率いる国際プロジェクトに参画)
  - アンタバクチンをABAの負の側面の問題を解決する新たな農薬として利用することで、温暖化による植物種子発芽低下や受粉効率低下の緩和による作物生産性改善の可能性
- メダカでヒトのアルビノ遺伝子を発見
  - ・難病に指定されているからだの色素が生まれつき不足している状態「アルビノ」。それにさらに血液が固まりにくい症状を伴う「ヘルマンズキー・パドラック症候群」の原因遺伝子の1つ「hps1」をメダカから発見
  - 治療法が見つかっていないヘルマンズキー・パドラック症候群の研究において、メダカが有用なモデル動物となることが期待

植物細胞が低温を感じると葉緑体の配置が変わる



#### 社会実装拠点・研究拠点形成に向けた環境整備

- 研究者支援
  - ・社会実装に資する研究や卓越した研究の成果を生み出すためには、研究者が研究に専念できる環境をつくる必要があることから、2020年度に「宇都宮大学における競争的研究費の直接経費から研究以外の業務の代行に係る経費の支出に関する申合せ」いわゆるバイアウト制度を導入しました。また、同じく2020年度に「宇都宮大学卓越教員制度」を創設し、研究業績や外部資金獲得実績等で優れた成果を上げている教員に対し、卓越教員の称号を授与することで「管理運営業務の免除」「講義担当の軽減」「業績に応じた研究費配分」「大型プロジェクトを推進するための研究スペース無償貸与」などを認めています。
- 研究施設・設備の整備
  - ・研究環境の維持・向上のためには、研究施設・設備の整備が必要であり、限られた資源の中でいかに効率的・効果的に整備するかが重要となります。施設については、2020年度に主要キャンパスの教育研究スペースの棚卸しを行い、研究施設のスペース再配分計画を策定して、分子農学分野の研究部門における研究スペースの拡大を行いました。設備については、クラウド管理システムによる全学的な機器共用化を図り、効率的な使用環境と学外からの使用促進を図っています。
- 研究予算の確保
  - ・アクションプラン2022-2027のスタートを機に、これまで戦略的予算により行ってきた機能強化事業の検証を行ったうえで、新アクションプランに合わせた事業への組み替えを行いました。このうち研究予算では、次のような事業を推進することとしています。
    - ◇卓越教員制度実施経費：卓越教員称号授与に伴い免除される管理業務等をバックアップ
    - ◇若手教員飛躍促進経費：優れた研究力を有する若手教員に対し研究費を支援
    - ◇アグリバイオ産業に資する研究拠点化：植物分子農学分野を強化するための戦略的な異分野融合の推進

戦略  
10

## 地域教育界の先導

### 質の高い教員の育成と学校支援による学校教育の質向上への貢献

➤2020年度に群馬大学との間で全国初となる「共同教育学部」を開設しました。この共同教育学部は、両大学のスタッフが集結し、互いの強みと特色を組み合わせた質の高いカリキュラム編成を可能とし、両大学が有する特徴的資源を相互活用することで、ICT/プログラミング教育やグローバル教育の強化など、幅広い教員養成教育を展開しています。

➤学部・教職大学院・附属学校が一体となって、教員養成・研修機能の高度化を推進するとともに群馬大学とのシナジー効果を有機的に活用し、現代の教育界が抱える課題や地域社会のニーズに応え、これからの社会で必要となる資質や能力を児童・生徒に修得させることのできる教員を養成する新たな教育体制を構築することにより、現代の社会変化を見据えた質の高い教員の育成と学校支援による学校教育の質向上に貢献します。



戦略  
11

## 地域の学び直し拠点機能の拡充

### 徹底したディスカッションで共に新しい未来を描く

➤2021年12月の閣議決定により設置された教育未来創造会議（議長:内閣総理大臣）が2022年5月にまとめた提言「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」では、人材育成を取り巻く課題として、進まないリカレント教育が挙げられています。

➤宇都宮大学では、社会人学び直しプログラムである「宇大アカデミー」を宇大未来塾(2017年開設)やUUカレッジ(2018年開設)を中心に実施してきました。受講者のキャリアアップや企業における人材育成のニーズを踏まえ、学校教育法の定めに基づく「履修証明プログラム」を開設しています。

➤地域企業の経営者層をターゲットに、複数の大学教員や受講生同士の徹底的なディスカッションを通して、受講生それぞれの仕事や取組で抱える多様な課題にしっかりと向き合い、課題の解決や自身のステップ・アップにつなげていくための学びの場として、新たな社会人向けプログラムである「ニューフロンティア・プログラム」を創設しました。



戦略  
12

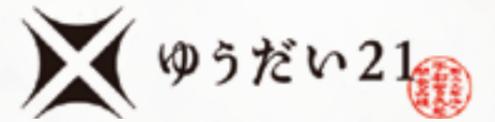
## 豊かな教育研究フィールドの活用と社会還元

### 優良食味米「ゆうだい21」の戦略的普及

➤「ゆうだい21」は、本学が一般の水稲栽培農家向けに普及を目指して開発した、日本初の国立大学生まれのお米です。2010年に品種登録されて以来、日本各地の様々な生産者によって栽培され、毎年数多くの品評会で最高賞を受賞するなど、その味と品質は高い評価を得ています。これらの実績によって、ゆうだい21は、これからの有力品種として業界の注目を集めています。詳しくは、次頁でご紹介します。

## TOPICS

### 優良食味米「ゆうだい21」の戦略的普及



#### ゆうだい21の開発

➤1990年宇都宮大学農学部の前田名誉教授が、のちの「ゆうだい21」につながる稲穂の株を発見しました。その稲穂は株が極めて大きく雄大な姿かたちをしていたことから、前田名誉教授は直感的に品種としての有用性を感じ、この株を継続して選抜試験にかけようことを決めました。

そして大学での研究を重ねた2010年、農林水産省に正式に品種登録され、発見から20年の歳月を経て新品種「ゆうだい21」が誕生しました。



前田名誉教授

#### ゆうだい21の特徴

➤「うまみが強く、バランスが良い」「噛むほどに甘味を感じられる」との味の評価と、粘り気が強いのが特徴です。また、冷めてから6時間後の硬さは炊飯直後と変わらないというデータがあり、冷めてもおいしいお米との評価も高いことから、一部大手コンビニエンスストアのおにぎりやお弁当でも使用されています。

食味性質	
おいしさ	★★★★★
香り	★★★★☆
粘り	★★★★★
やわらかさ	★★★★☆
粒の大きさ	★★★★★

宇都宮大学調べ

#### ゆうだい21の食味評価の実績

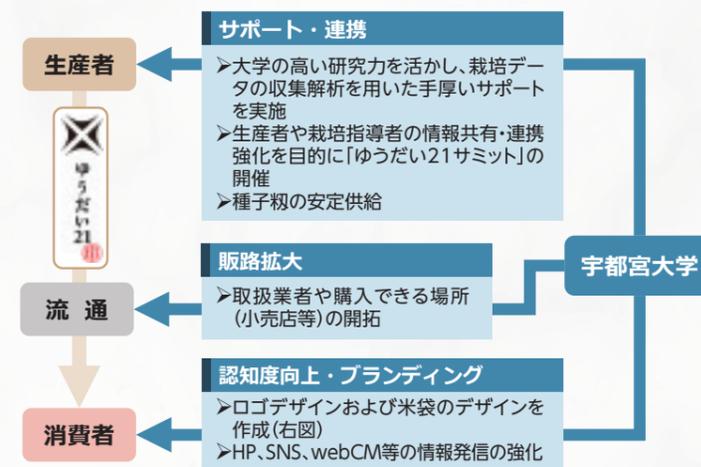
➤日本各地で様々な生産者が栽培したゆうだい21が2014年以来、「米・食味分析鑑定コンクール」等の食味の品評会において、毎年最高賞を受賞するなどの高い評価を得ています。2020年には、全国の生産者が米の味を競う「第17回お米日本一コンテスト」で、栃木県内の生産者が栽培・出品したゆうだい21が金賞を受賞しました。これは栃木県勢初の快挙となりました。2021年には、茨城県の生産者で米の味を競う「いばらき米の頂上コンテスト」で、ゆうだい21が1～3位を独占する等、食味の評価には確かな実績があります。



右:栃木県勢初金賞受賞者 阿久津様  
左:農学部附属農場 高橋教授

#### 「ゆうだい21」戦略的普及プロジェクト

➤前述したように優良食味米として近年さらに評価が高まっている「ゆうだい21」を普及させるため、本学では戦略的普及プロジェクトを立ち上げました。本学の推進体制を強化し、生産者へのサポート・連携体制を構築するとともに、情報発信を強化し、ブランディングにより「ゆうだい21」の認知度を向上させます。また、販路拡大による、生産者の生産意欲の向上や消費者の購買欲求を満たす取組を行ってまいります。さらに大学として科学的・学術的見地から「ゆうだい21」のおいしさの解明や後継品種の開発を進めてまいります。



2022年12月「ゆうだい21サミット」開催



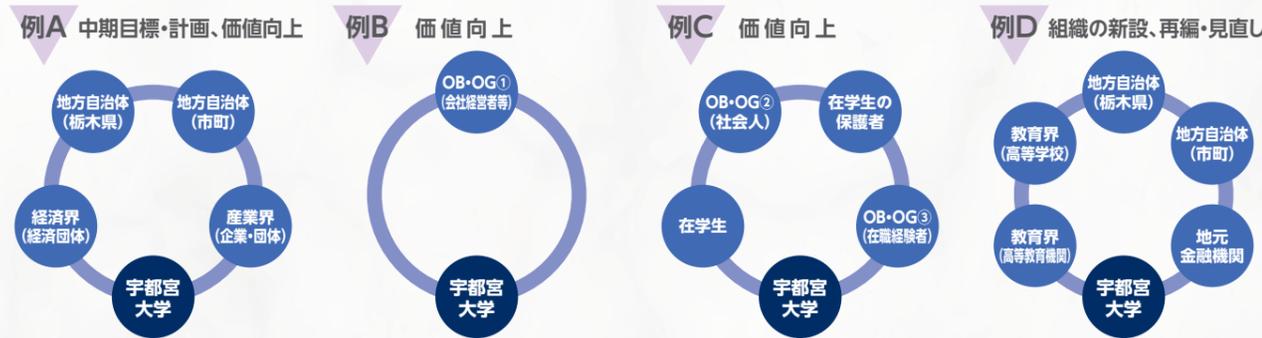
# 学内のコンセンサスに立脚した組織運営

## ステークホルダーを巻き込んだ大学経営モデルの構築

### ステークホルダー会議を中心とした成果の検証、計画の見直しサイクル

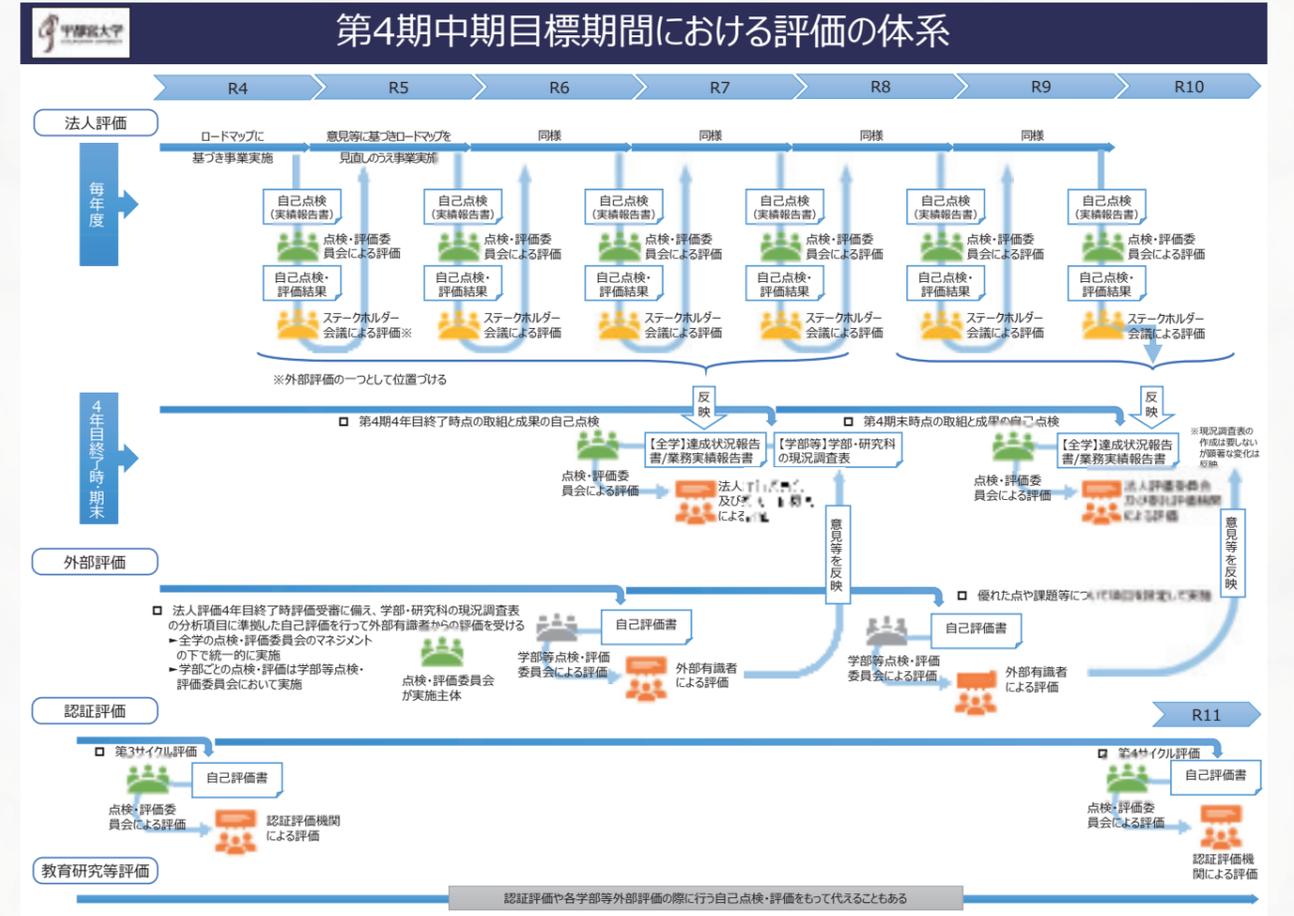
▶宇都宮大学は、真の経営体として多様なステークホルダーとのエンゲージメントを通じた信頼関係を構築し、開かれた大学運営と社会的価値の向上を実現するため、2020年度に宇都宮大学ステークホルダー会議を設置しました。本会議は、様々なステークホルダーから幅広い意見を聴取するという趣旨から、議決権を有する形態とせず、また、会議開催方法も、全委員が一堂に会することを要せず、検討内容によってメンバーを決定するフレキシブルな会議体として運営しています(下図参照)。

▶アクションプラン2022-2027では、このステークホルダー会議を中心として、成果の検証、計画の見直しの一連のサイクルを確立することとしています。



▶会議設置から3年目となった2022年度は、11月現在までに3回の会議を開催して、様々な意見交換を行うとともに、年度末においては「アクションプラン2022-2027」達成ロードマップに基づく事業実施に対する成果検証を行い、計画の見直しにつなげていくことを予定しています。(評価体系は次ページ参照)

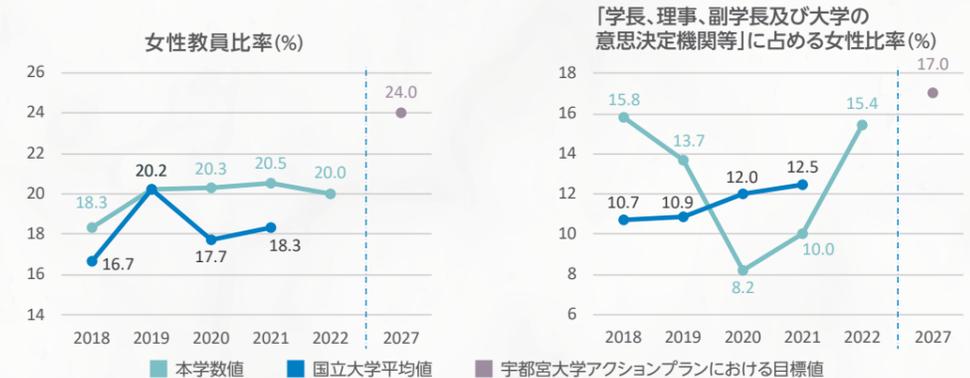
1回目	参加者：産業界、経済界を中心としたメンバー テーマ：各学部・研究科の組織評価ヒアリング 学部長、研究科長から、第3期中期目標期間における実績や、第4期中期目標期間における取組みの内容についてプレゼンテーションを行いました。それに対し、本学役員を含めたステークホルダー会議委員による評価を実施しました。
2回目	参加者：栃木県立高校長(3名)、私立高校進学担当教員(1名) テーマ：近年の入試傾向等の分析結果、全学生に備えさせる汎用的能力として定めた宇大スタンダードや近年の基盤教育改革の内容、2024年度設置に向けて進めているデータサイエンス経営学部(仮称)の設置構想を主な議題として意見交換を行いました。
3回目	参加者：栃木県内の3市町長 テーマ：第3期中期目標期間の成果と第4期中期目標期間のアクションプラン、地域デザインセンターへの防災部門の設置、リカレント教育、自治体等からの相談窓口である社会共創促進センターの取組を主な議題として意見交換を行いました。
4回目(予定)	参加者：産業界、経済界を中心としたメンバー テーマ：「アクションプラン2022-2027」達成ロードマップに基づく事業実施に対して、達成指標に対する進捗状況や実績報告をもとに成果検証を実施します。



## 教職員の戦略的配置

### 人事給与マネジメントの高度化による戦略的な人員配置

▶2021年度までの全ての教員人事は、役員と学部長等で構成する「人事調整会議」の下で、各部局に配分して運用する教員ポイントと全学的に強化が必要な分野に配分する学長裁量ポイントによって、戦略的な教員配置を行ってまいりましたが、第4期中期目標期間がスタートした2022年度からは、各部局に配分していた教員ポイント制度を廃止するとともに、執行部で組織する戦略企画本部会議において人事を一元管理し、全学的なビジョンによる教員の任用と昇任を行うこととした人事給与マネジメント改革を行いました。これにより、更なる戦略的な人員配置と人材育成体制が確立され、若手・女性教員の積極的な採用による多様性の確保や、2024年度に設置を計画しているデータサイエンス経営学部(仮称)の人材補強を可能としています。また、多様性の確保においては、特に女性教員の積極的な採用とキャリアアップを図るために「宇都宮大学女性教員活用推進のためのアクションプラン」を策定し、女性教員比率と各職階で女性教員が占める割合を増加させる取組を行っています。



# 環境への取組

## 宇都宮大学の環境方針

### 基本理念

地球温暖化をはじめとして、資源エネルギーや生物多様性など地球環境保全の問題は、人類が直面している大きな課題となっています。自然と豊かな環境の保全を通じて一人一人が幸せを実感できる生活をつくりあげ、次世代に継承させる社会の構築が求められています。

本学は、「地域の知の拠点」として、また、広く社会に貢献すべく開かれた大学として、社会の要請に応じた人材の養成はもとより、持続可能な社会の形成を促す教育研究や環境整備等を通じて、環境保全に努めます。

### 基本方針

#### 1 持続可能な社会形成を促す教育研究の推進

低炭素社会で求められる環境問題に関するグローバルな視野と実践力とを養うための教育を進めます。また、持続可能な社会の形成を促す研究を推進し、その成果を社会に還元します。さらに、学生に対する環境問題への意識啓発を進めるため、環境改善学生サポーターなど学生参加型の学生支援を積極的に進めます。

#### 2 地域の環境保全

地域の環境保全に関する要請を踏まえた産学連携等の推進により、地域社会に貢献します。

#### 3 環境負荷の低減

地球温暖化対策の推進や、省エネルギー対策に向けて、温室効果ガス排出抑制等の環境配慮行動を積極的に推進します。また、省資源、資源の循環利用、グリーン購入の推進、化学物質管理の徹底等、大学運営における循環型社会構築への配慮に努めます。

#### 4 環境情報の発信

環境方針、環境報告書、環境改善活動等の自己点検・評価等の環境関連情報を、大学ホームページ等を通じて、学内の教職員・学生や一般社会へ積極的に公開します。

## CO<sub>2</sub>削減

過去5年間のCO<sub>2</sub>排出量は2017年度をピークに減少し、2017年度から2021年度では、959t-CO<sub>2</sub>の減少となりました。その主たる要因は、照明器具のLED化、高効率の空調設備への更新、建物の複層ガラス化、太陽光発電設備の設置などの省エネ対策によるものです。また、2020年度においてはコロナ禍の影響によりオンライン授業が続いたため、大学の建物稼働率が落ちたことも影響しています。



### 省エネルギー施設の建設「セキスイハイムさくら寮」



## 廃棄物排出量の削減

資源物の分別の徹底、備品等のリユース活動等を積極的に行ったことで、廃棄物の削減につながっています。

(単位:kg)

年度	可燃物	不燃物	ペットボトル	計
2019	55,869	3,634	5,837	65,340
2020	44,333	3,166	3,289	50,788
2021	52,994	3,281	4,682	60,957

# SDGsの推進



持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までの国際社会共通の目標です。持続可能な世界を実現するための17の目標で構成されています。宇都宮大学では、SDGsの目標それぞれを達成するための取組を推進しています。

## 宇都宮大学のSDGsの取組

### 宇都宮大学SDGs事例集

宇都宮大学が取り組んでいる様々な教育研究活動を、SDGsの達成に向けた観点で取り纏め、可視化した「宇都宮大学SDGs事例集」を2019年度から発行しています。この冊子によって、広く宇都宮大学の活動を知っていただくとともに、目標達成に向けて多くの皆さんとの連携を推進していきます。

URL:<https://www.sic.utsunomiya-u.ac.jp/sdgsjirei>



### 教育面での取組

宇都宮大学のシラバスでは、すべての科目においてSDGsの各目標との関連性を確認することができます。学部の授業では、学生がSDGsに関する基礎知識を学び、今後の学修・研究の基盤とすることを目的とした1年次必修科目「SDGs入門」を開講しています。この科目は、全学部の教員が連携して行うオムニバス形式で、専門的な学びとSDGsとのつながりを学ぶ文理融合型の授業です。また持続可能な取組を推進する地方自治体の職員を講師として招聘するなど、学生がSDGsの社会的な位置づけを多角的に理解するための工夫を行っています。

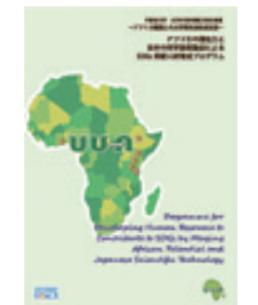
大学院においては、2021年度に開設された地域創生科学研究科(博士後期課程)において、分子農学や光工学、ロボティクスといった、SDGs達成につながる科学技術イノベーション(STI for SDGs)の研究も活発化しています。専門領域の壁を越えた研究を推進し、分野融合的な知見の創出によって、持続可能で豊かな地域社会の実現を目指しています。

### 宇都宮大学 大学の世界展開力強化事業～アフリカ諸国との大学間交流形成支援～ アフリカの潜在力と日本の科学技術融合によるSDGs貢献人材育成プログラム

国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力の強化を目指し、高等教育の質の保証を図りながら、日本人学生の海外留学と外国人学生の戦略的受入を行う事業対象国・地域の大学との国際教育連携の取組を支援することを目的として、文部科学省にて2011年度から開始された事業です。宇都宮大学は2020年度に採択され、2024年度まで5年間の支援を受けて事業を実施しています。宇都宮大学とアフリカの6つの連携大学との交換留学を通じ、SDGsの目標達成に貢献できる人材育成を目的としています。本事業では、これまでコロナ禍により、海外渡航が実現できませんでしたが、ようやく2022年度後半から、学生をアフリカに派遣できるようになりました。2022年度は長期(エチオピア以外の3か国5大学から選択)1名と短期(ガーナ大学(予定))4名を募集します。



シラバス検索画面



### SDGsを推進するワークショップの開催

宇都宮大学ではSDGsを推進するため、様々なイベントやワークショップを開催しています。一例として、2022年9月に世界中の政府や地方自治体、若者の団体、市民社会組織、メディア、民間企業などがSDGsのために行動するキャンペーン「The GlobalWeek to #Act4SDGs」が実施され、国際学部の学生が、今もなお様々な地域で紛争が続いている現状に対し、より良い社会の担い手へと成長することを目的にロールプレイを兼ねたワークショップを開催しました。

氏名	池田 幸	藤井 佐知子	吉澤 史昭	横田 和隆	佐藤 規朗	鈴木 邦雄	松金 公正	長谷川 光司	特命副学長 西村 訓弘 ・社会共創	監事 溝口 周二
役職名	学長	総括理事(企画・評価担当) ・副学長	理事(学務・社会共創担当) ・副学長	理事(研究・情報担当) ・副学長	理事(総務・財務・事務総括担当) ・副学長	理事(大学運営全般担当)	副学長	副学長		
役員在任年数	8年	8年	2年	2年	5年	3年	2年	1年		
経営	●	●	●	●	●					
教育	●	●	●	●	●		●	●		
アドミッション	●		●							
研究	●			●	●					
情報	●			●	●					
社会共創	●		●							
グローバル戦略	●		●				●			
財務・予算	●	●			●					
基金	●	●								
危機管理	●			●	●					
人事・労務	●				●					
広報	●	●			●					
施設・設備	●			●	●					
点検・評価	●	●								
ダイバーシティ	●	●								
DS経営学部(仮)設置準備	●		●			●		●		



学長特別補佐  
天沼 実  
・リカレント教育  
・アドミッション



学長特別補佐  
磯谷 玲  
・DS経営学部(仮)  
設置準備



学長特別補佐  
福井 えみ子  
・男女共同参画  
・教職学協同

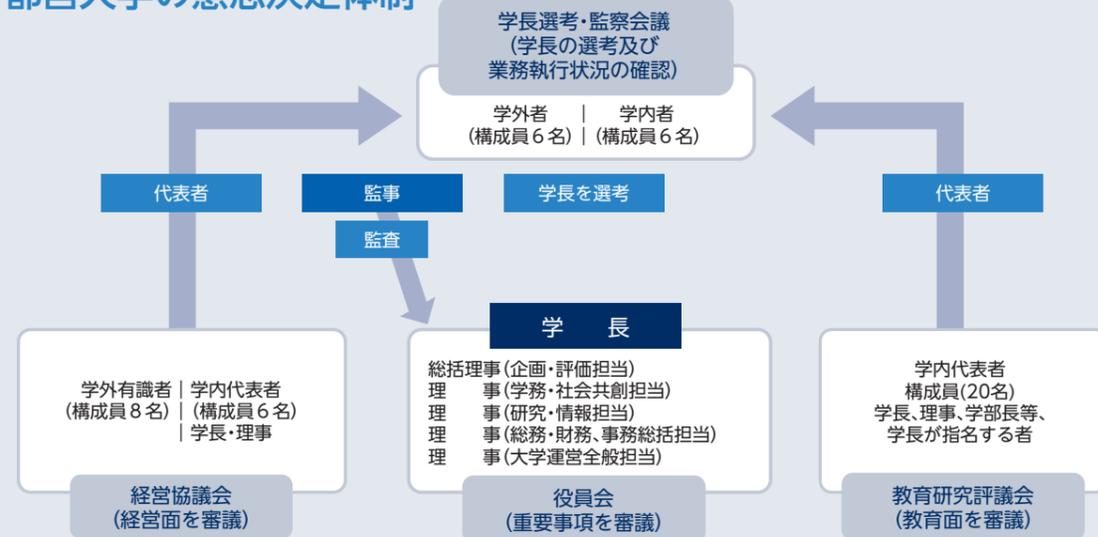


学長特別補佐  
大森 玲子  
・学生支援



監事  
富田 哲夫

## 宇都宮大学の意思決定体制



## 戦略企画本部を核とした戦略の企画・立案体制

社会の流れや大学を取り巻く変化に柔軟かつスピーディーに対応するため、執行部で組織する「戦略企画本部」を設置し、この下で教育、研究、地域創生等における大学の重要課題に対し、戦略的かつ一元的に企画立案を行う体制を構築することで、大学の価値創造を加速していきます。



## 貸借対照表(BS)

単位:百万円

資産の部	2020	2021	増減	負債の部	2020	2021	増減
○固定資産	77,156	77,923	766	資産見返負債	5,642	5,545	△97
土地	61,372	61,372	0	長期借入金	43	827	783
建物	10,883	11,508	624	寄附金債務	805	827	22
構築物	721	756	34	未払金	1,392	1,491	98
工具器具備品	680	712	32	その他	1,029	877	△151
図書	3,010	2,895	△115	負債計	8,913	9,569	656
美術品・収蔵品	100	100	0	○純資産の部	2020	2021	増減
投資有価証券	260	360	99	資本金	73,540	73,540	0
その他	127	217	90	資本剰余金	△2,676	△2,726	△49
○流動資産	3,288	3,297	8	○利益剰余金	666	835	169
現金・預金	2,938	2,923	△15	目的積立金等	372	327	△44
未収入金	136	160	23	当期末処分利益	294	508	214
有価証券	201	200	0	純資産計	71,531	71,650	119
その他	11	12	1	負債・純資産合計	80,444	81,220	775
資産計	80,444	81,220	775				

貸借対照表は決算日(3月31日)における本学の全ての資産、負債及び純資産を記載することによりその財政状態を明らかにすることを目的としています。  
この表からは2021年度末時点において、長期借入金を含む約95億円の負債と国からの出資等による約716億円の純資産から形成された土地、建物など約800億円の資産を用いて教育研究等の業務活動を行っている構造が読み取れます。

## 損益計算書(PL)

単位:百万円

経常費用	2020	2021	増減	経常収益	2020	2021	増減
教育経費	1,352	1,350	△2	運営費交付金収益	5,547	5,433	△114
研究経費	650	674	24	学生納付金収益	2,889	2,869	△20
教育研究支援経費	314	473	159	受託研究収益等	556	588	32
受託研究費等	548	582	34	寄附金収益	237	183	△54
人件費	6,635	6,353	△282	施設費収益	83	49	△34
一般管理費	534	529	△5	補助金等収益	321	227	△94
その他の費用	2	5	3	資産見返戻入	416	538	122
経常費用合計	10,038	9,968	△70	財務収益・雑益等	253	294	41
臨時損失	11	5	△6	経常収益合計	10,305	10,184	△121
計	10,049	9,973	△76	目的積立金等取崩額	37	127	90
当期総利益	294	508	214	計	10,343	10,312	△31

損益計算書は事業年度内に本学が実施した事業等により発生したすべての費用と収益を記載することにより、その運営状況を明らかにしています。費用の側には教育、研究等の目的別に、収益の側には国からの交付金や学生納付金による収益等を財源別に計上しています。

## 総資産額の推移



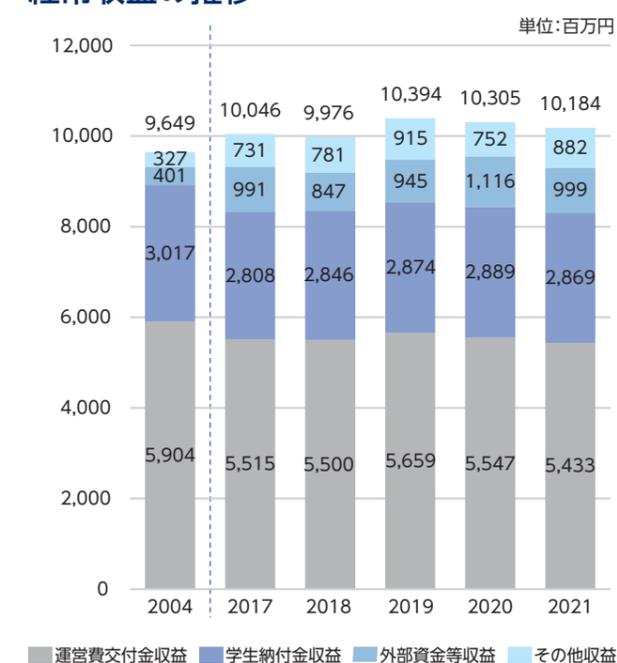
土地・建物等が総資産に占める割合が約9割となっています。2004年度以降、新たな資産の取得があったものの減価償却による簿価の減少に伴って、総資産額に大きな変動はありません。

## 経常費用の推移



教職員数を可能な限り抑制して人件費を削減し、その分を教育経費に充当して教育の質を維持してきました。その結果、2004年度と比較して教育経費は大きな伸びを見せています。

## 経常収益の推移



2004年度と比較して運営費交付金収益、学生納付金収益の割合が減る一方で、外部資金等収益は倍増しています。なお、外部資金受入額の推移は右図をご覧ください。

## 外部資金受入額の推移



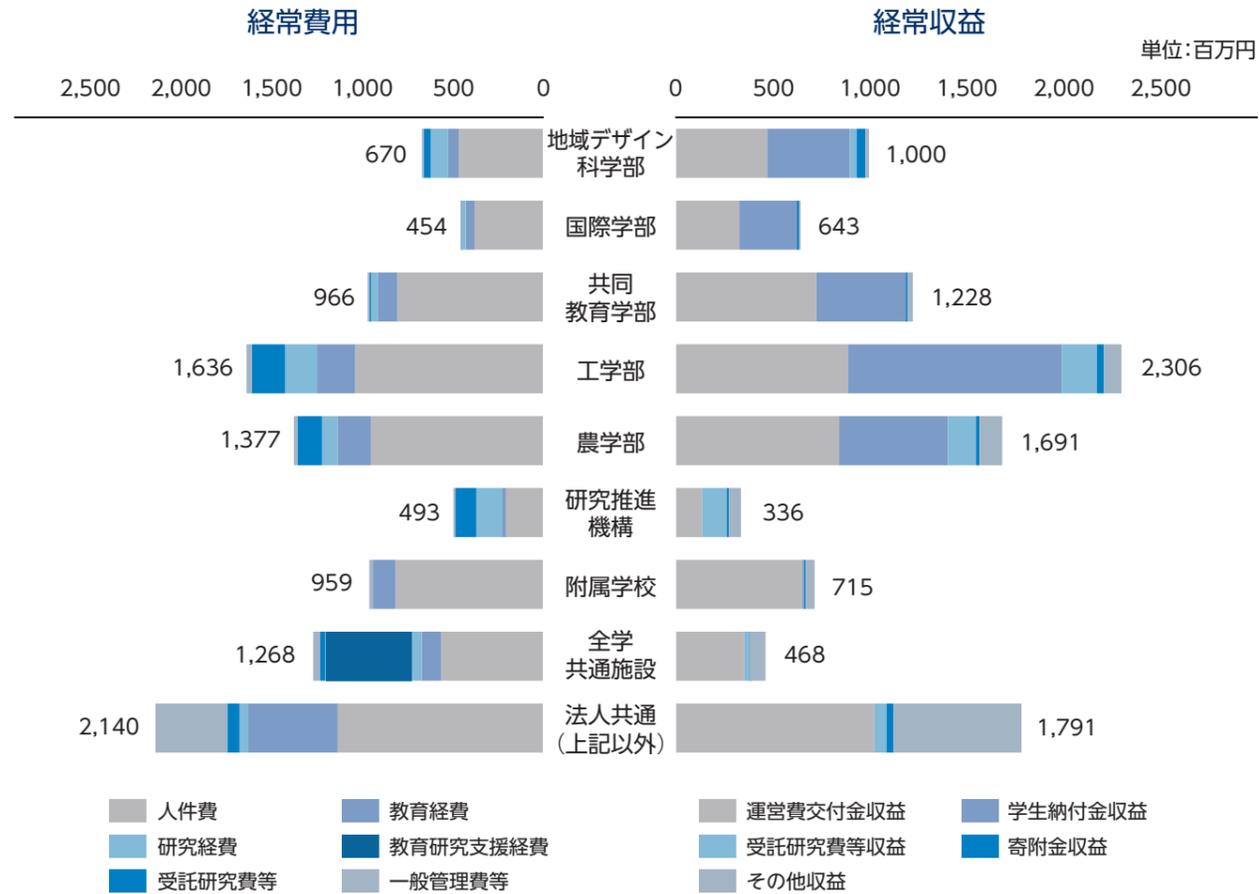
外部資金受入額は2004年度と比較して、約2.3倍と顕著な伸びとなっています。外部資金等の多様な財源の獲得は運営費交付金が減少していく中で、ますます重要となっていきます。

# セグメント情報の開示(2021年度)

より詳細な財務情報の開示を目的として、財務諸表とは別に本学を構成する学部・研究科を中心とした費用、収益の情報を開示しています。これにより、学問分野ごとの規模や財政構造の違いなどをより明確にお伝えできるようになりました。

各セグメントに属する  
主な組織

附属学校：附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属特別支援学校  
全学共通施設：教育研究支援施設、大学教育推進機構、地域創生推進機構



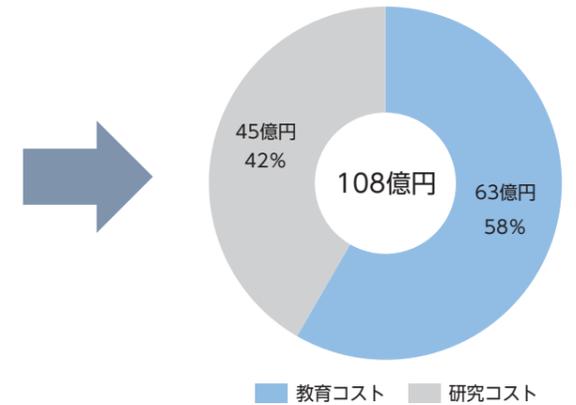
区分	学部・研究科等					研究推進機構	附属学校	全学共通施設	法人共通他	合計
	地域デザイン科学部	国際学部	共同教育学部	工学部	農学部					
<b>経常費用</b>										
人件費	463	379	809	1,040	953	203	811	562	1,131	6,353
教育経費	64	51	101	205	177	18	131	104	494	1,350
研究経費	95	16	41	178	85	144	0	57	53	674
教育研究支援経費	0	0	0	0	0	0	0	473	0	473
受託研究費等	38	1	3	182	136	121	0	31	65	582
一般管理費等	9	5	10	29	24	5	16	39	395	535
小計	670	454	966	1,636	1,377	493	959	1,268	2,140	9,968
<b>経常収益</b>										
運営費交付金収益	470	333	726	888	841	138	653	352	1,028	5,433
学生納付金収益	429	295	458	1,102	568	0	14	0	0	2,869
受託研究費等収益	38	1	3	186	138	124	0	30	65	588
寄附金収益	46	4	12	39	17	16	7	5	33	183
その他収益	15	8	28	90	126	57	40	79	663	1,109
小計	1,000	643	1,228	2,306	1,691	336	715	468	1,791	10,184
経常損益	329	189	262	669	314	△156	△244	△799	△349	215

# コストの見える化に向けた取組

既存の財務諸表には「教育経費」「研究経費」が記載されていますが、ここにはそれぞれの活動に直接要した物件費のみ計上されています。しかし物件費のみではそれぞれの活動を行うことはできません。活動のためには教員・職員の人件費や大学の設備の維持・管理費等も必要です。これらの経費を含めた、教育・研究に関する経費を正しく把握するため、各経費を分析しました。

## 活動別コスト(2021年度)

経費	金額(億円)	コスト分析
教育経費	13.5	教育コスト
研究経費	6.8	研究コスト
教育研究支援経費	4.7	教育・研究双方に寄与するため一定の算定基準のもと「教育・研究コスト」に計上
産学官連携経費	5.8	
役員人件費	0.9	
教員人件費	45.0	
職員人件費	17.7	研究コスト
一般管理費	5.3	
損益外減価償却費	2.0	
科学研究費補助金	6.3	
総計	108	



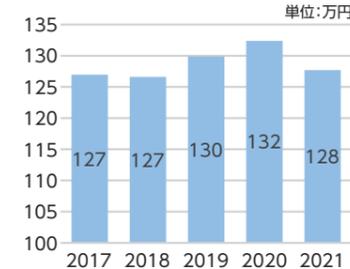
損益計算書上では費用として表示されない損益計算外の費用や、多くの部分を占める人件費等をコスト分析しました。これにより、損益計算書上では「教育経費」13.5億円と表示されていたものが、教育コストとして63億円と算定され、約50億円もの見えないコストが見える化されるようになりました。

## 学生・教員一人当たりコスト

上記で算定した教育・研究コストをそれぞれ学生一人当たり、教員一人当たりで換算すると下表のとおりとなります。

教育コストの学生一人当たり換算額	128万円
研究コストの教員一人当たり換算額	1,091万円

## 教育コストの学生一人当たり換算額

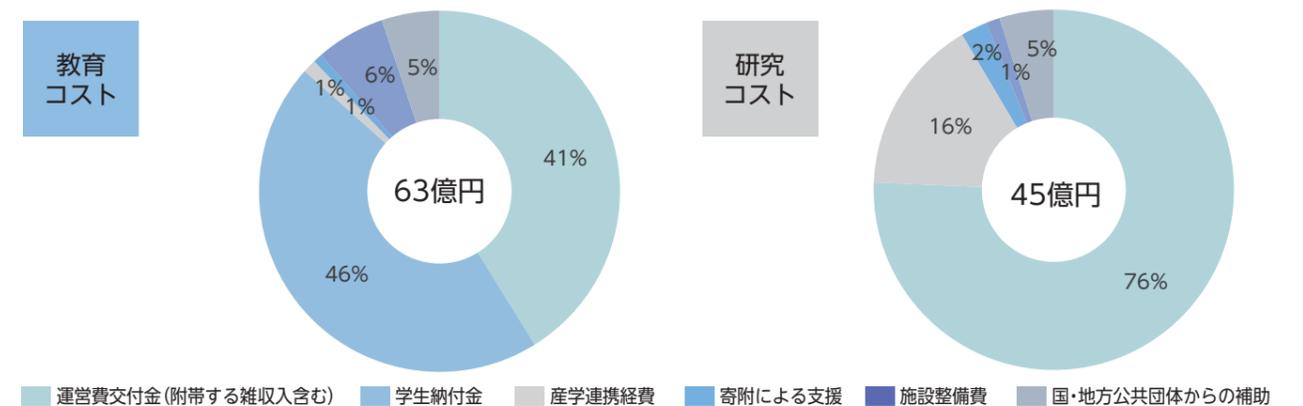


## 研究コストの教員一人当たり換算額



学生一人当たりの教育コスト128万円が年間授業料53万円の約2.4倍に相当しているように、教育・研究活動は多様な財源によって支えられています。

## 活動を支える財源(2021年度)



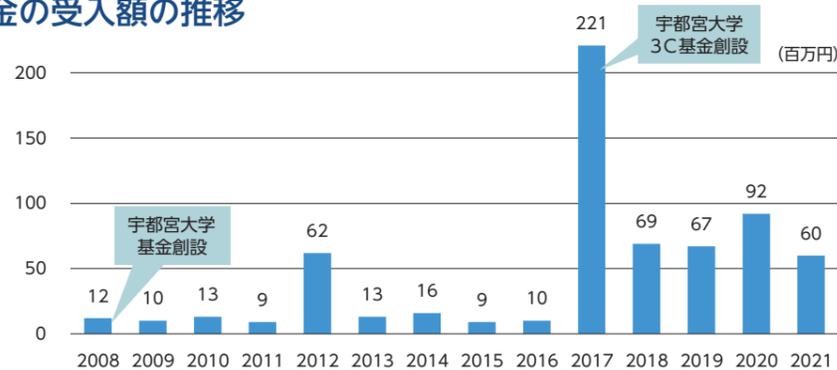
今後も持続的な教育研究活動を通して社会に貢献できるよう、安定した財源基盤の確立を目指してまいります。

## 宇都宮大学の夢の実現

もっとも学生を大切に育てる大学でありたい  
 もっとも地域から信頼される大学でありたい  
 あらたな知を創造し続ける大学でありたい

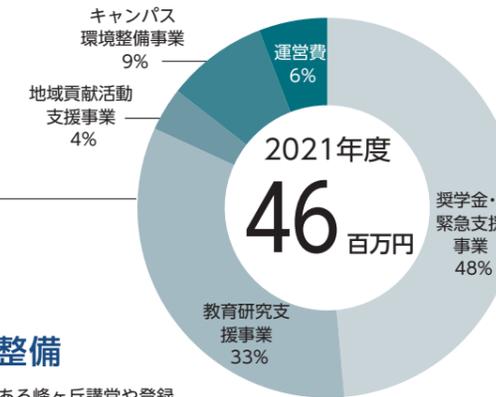
宇都宮大学3C基金は、学生の保護者の皆様、卒業生・修了生の皆様、地域の皆様、企業や組織など様々なステークホルダーの皆様からのご寄附により成り立っています。大学運営のために国から交付される資金(運営費交付金)が年々減額されるなか、「宇都宮大学の夢の実現」のために必要な資金として広く募集しています。  
 本基金は、従来の宇都宮大学基金をリニューアルして、2017年度に、本学のスピリットである3C精神(Challenge、Change、Contribution)にちなみ、「宇都宮大学3C基金」として創設しました。創設以来、沢山の皆様から多くのご支援をいただき、広く社会で活躍する人材の育成に向けて、学生支援、教育研究活動支援、地域貢献活動支援、キャンパス環境の整備・充実等に活用させていただいております。  
 今後とも多くの皆様方からご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### 3C基金の受入額の推移



### 3C基金の支援実績

#### 3C留学奨励金



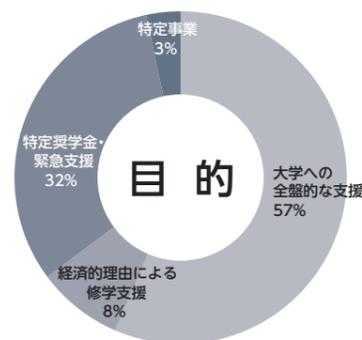
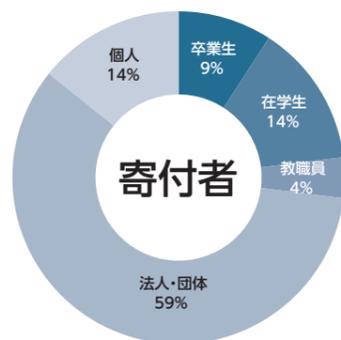
#### 学生ピアサポート



#### 飯村チャレンジ奨学金



### 3C基金受入額内訳(2017～)



### ヒストリカルゾーン環境整備

ヒストリカルゾーンとは、登録有形文化財である峰ヶ丘講堂や登録記念物であるフランス式庭園を中心とした6つの施設の総称です。農学部の前身である高等農林学校創立や造園された庭園の完成から100周年を迎えるに際し、学生や地域の方々が親しみを持って利用しやすくなるよう環境整備を計画的に実施していきます。ご寄付いただいた資金により、2022～2023年度にかけ、UUプラザ、峰ヶ丘講堂、石蔵周辺を整備し、新たな景観を構築し、2024～2026年度にかけ、造園当初の目的・背景を踏まえた整備を行い魅せ方を工夫した憩いの場を提供していきます。これにより新たな100年のスタートとしていきます。



石蔵を解体し、新たな景観創出。講堂東側に芝生を植栽



講堂西側にスロープや渡り廊下を設置、アジサイを植栽

### 寄附の特典

#### プレゼント

個人でご寄附いただいた方へ、1年間の合計金額に応じて、プレゼントをお送りさせていただきます。

寄附金額	プレゼント
1万円以上	お米「ゆうだい21」3合
2万円以上	お米「ゆうだい21」2kg
3万円以上	オリジナルボールペン
5万円以上	お米「ゆうだい21」2kg + オリジナルボールペン

#### 顕彰制度と銘板

累積した寄附金額に応じ、以下の称号をお贈りし、銘板を掲示させていただきます。また、貢献会員以上の方へは感謝状と記念品を贈呈させていただきます。



銘板

称号	個人の寄附額	法人の寄附額	背景色	感謝状・記念品
賛助会員	10万円以上	50万円以上	ピンク	
貢献会員	50万円以上	100万円以上	ブロンズ	○
特別貢献会員	100万円以上	1,000万円以上	シルバー	○
栄誉会員	1,000万円以上	5,000万円以上	ゴールド	○

### 宇大倶楽部(継続払い)

皆様がより手軽に、継続的に宇都宮大学をご支援いただけるよう、「宇大倶楽部」が発足しました。インターネットから一度お申込みいただくだけで、自動的に会員となり、定期的により手軽にご寄附いただくことが可能です。

#### 宇大倶楽部会員の特典

寄附金額	法人			
	個人・法人 ピンバッジ UUnow 各種イベント	サポーター パネル	教室パネル	合同企業説明会 優先参加
1万円以上	○			
10万円以上	○	○		
30万円以上	○	○	○	○
50万円以上	○	○	○*	○

\*一時払いの場合でも1年間対象になります。



特製ピンバッジ



広報誌UUnow



教室パネル



サポーターパネル

大学名	国立大学法人 宇都宮大学
英文名	Utsunomiya University
代表者	学長 池田 幸
本部所在地	〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町350
創立	1949年(昭和24年)5月31日
資本金 (政府出資金)	73,540,828,273円
職員数	619人
決算日	3月31日
会計監査人	有限責任 あずさ監査法人
URL	<a href="https://www.utsunomiya-u.ac.jp/">https://www.utsunomiya-u.ac.jp/</a>



峰ヶ丘講堂(国の登録有形文化財)



フランス式庭園(国の登録記念物)

### 入学定員 (学部)

学部	入学定員
地域デザイン科学部	140
国際学部	90
共同教育学部	170
工学部	315
農学部	195
合計	910

### 入学定員 (大学院)

研究科	課程	入学定員
地域創生科学研究科	博士前期課程	335
地域創生科学研究科	博士後期課程	25
教育学研究科	専門職学位課程	18
合計		378

### 学生数 (2022.5.1 現在)

学部・研究科	課程	在籍者数(うち女性)	女性比率
学部		3,977 (1,593)	40.1%
研究科	博士前期課程	806 (206)	25.6%
	博士後期課程	102 (29)	28.4%
	専門職学位課程	37 (14)	37.8%
合計		4,922 (1,842)	37.4%

### 職員数 (2022.5.1 現在)

区分	員数
役員(非常勤役員含む)	8
大学教員	327
附属学校教諭	82
事務系職員	202
合計	619

### 進路状況 (2022.3 学部卒業者)

	区分・員数	合計
進学(大学院・その他)		378
就職	教育 127 建設 34	575
	公務 111 サービス 34	
	製造 69 学術・専門 25	
	情報通信 53 医療・福祉 17	
	卸・小売 51 その他 54	
	その他	
合計		988

### 就職率 (学部卒業者)

年度	就職率
2017.3卒業	98.2%
2018.3卒業	99.0%
2019.3卒業	98.5%
2020.3卒業	99.3%
2021.3卒業	99.6%
2022.3卒業	100.0%

### 進路状況 (2022.3 大学院修了者)

	区分・員数	合計
進学(大学院・その他)		16
就職	製造 172 サービス 9	310
	学術・専門 37 公務 9	
	情報通信 36 電気ガス等 5	
	建設 12 農・林 3	
	教育 12 その他 15	
その他	70	
合計		396

### 就職率 (大学院修了者)

年度	就職率
2017.3修了	96.4%
2018.3修了	98.4%
2019.3修了	99.1%
2020.3修了	99.7%
2021.3修了	99.3%
2022.3修了	100.0%

### 宇都宮大学のモットー

## —地域に学び、地域に返す、地域と大学の支え合い—

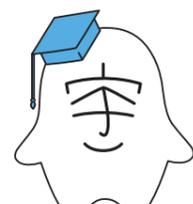
#### 宇都宮大学校章



#### 宇都宮大学ロゴマーク



#### 宇都宮大学キャラクター



「宇～太」

### 宇都宮大学歌 歌詞



(一) 高空に ひかりあかるく  
た、なわる 遠き山脈  
まなびやは 緑に映えて  
若き夢 庭につどえる  
あ、白雲の  
かげなびく「峰ヶ丘」

(二) かぎりなき 天の心よ  
降る星の 深きま、やき  
巨いなる 人の想いぞ  
地にのこる 書は語らん  
あ、悠久の  
時流る「峰ヶ丘」

(三) どこしえに 光はあれど  
雲かける 愛いせにあり  
一寸の ひろき学びに  
もゆる火の 信念ゆるがじ  
あ、清純の  
血はたぎる「峰ヶ丘」

(四) うけつぎし 代々のみのりぞ  
いやまさん 勁き生命よ  
ともにゆく 日々のはげみに  
人の世は 望みあふれん  
あ、永遠の  
榮えあれ「峰ヶ丘」



2022年12月  
ACTION PLAN & FINANCIAL 統合報告書2022  
お問い合わせ先  
宇都宮大学戦略企画室 ☎028-649-5005  
e-mail : [kkikaku@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:kkikaku@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp)